

敦賀市こどもの国(屋内プレイエリア)リニューアル 基本計画

令和6年3月

敦賀市

目次

第1章 基本計画策定にあたって	1
1. 基本計画策定の背景と目的	1
2. 基本構想の整理	1
(1)リニューアルの基本方針	1
(2) 屋内プレイエリア整備コンセプト	2
(3) リニューアル検討エリア	2
第2章 現状の把握	3
1. 施設を取り巻く現状	3
(1)施設概要	3
(2)周辺環境について	5
2. 施設設備・機能の現状	5
(1) 施設設備の現状	5
(2) 施設リニューアルに関わる法令等諸条件の整理	7
第3章 課題の整理	8
1. 課題調査の手法について	8
2. 課題調査結果	9
(1) 関係者ワークショップ	9
1) 調査結果	9
2) 関係者ワークショップの傾向と課題	10
(2) WEB アンケート結果概要	11
1) 配信、回収状況	11
2) 調査結果	11
(3) 利用者フィードバック結果	23
1) 回収状況	23
2) 調査結果(概要)	23
3) 利用者フィードバック調査からみる傾向と課題	26
(4) 課題の考察	27

3. 類似施設調査	28
(1) 類似事例調査 概要	28
1) ヒアリング調査 結果	29
2) 現地視察 調査結果	35
(2) 調査結果と課題	38
第4章 屋内計画	39
1. 基本計画コンセプト	39
2. テーマ及び屋内計画	39
(1) 屋内計画の展開方針	39
(2) 各ゾーニングと機能	42
(3) 屋内動線の検討	46
(4) 展示イメージパース	47
ア 1F エントランス	47
イ 1F つるがネイチャールーム(仮称)(旧アトム ASOBO ランド)	48
ウ 1F プラネタリウム前室	49
第5章 管理運営計画	50
1. 現状の管理運営組織	50
2. リニューアル後の管理運営組織	51
3. その他	52
(1) 団体来館時の運用	52
1) 現在の運用	52
2) リニューアル後の運用	53
(2) 年齢層の住み分け	57
(3) 水槽展示生物の飼育	57
1) 飼育水の種類の比較	57
2) 飼育する魚種の比較	59
3) 運営方式の比較	61
4) 予備水槽の有無	61
第6章 概算事業費及び維持管理費の算出	64
1. 概算事業費	64
2. リニューアルに関する維持管理費	66
第7章 整備スケジュール	69
1. 整備スケジュール(案)	69

【別紙】

- ・ 基本計画 概要版

第1章 基本計画策定にあたって

1. 基本計画策定の背景と目的

敦賀市では、子育て環境の充実を目指して、「キッズパークつるが」、「多世代型ウェルネス広場」を整備している。その第3弾として、「敦賀市こどもの国」の既存施設や遊具を有効活用しながら新たな機能などを追加することを検討している。

本計画は、「敦賀市こどもの国リニューアル基本構想」（以下、「基本構想」という。）で定められた基本方針やコンセプトをもとに、屋内プレイエリアについて、老朽化した施設・設備の更新や新たに求められる機能など、設計の前提となる基本的な考え方を整理・検討した上で、リニューアルの内容・規模、概算事業費、建設スケジュールなどに関する基本計画（以下、「基本計画」という。）を策定することを目的とする。

2. 基本構想の整理

(1) リニューアルの基本方針

「敦賀こどもの国」は昭和55年の開館以来、多くの市民や子どもたちにとって学習・遊びの場、親子の触れ合いの場として利用されてきた。平成25～26年度には内装改修や屋外遊具、プラネタリウム機器等の入れ替えを行ってきたが、さらなる機能の充実や老朽化した部分の改修、誰もが利用しやすい快適な空間の創出等が課題となっている。

リニューアル検討にあたり、敦賀市では市民や利用者のニーズ調査を実施、その結果「自由に遊べること」や「利用料金がほとんど無料であること」を利用する理由として挙げており、「アトムASOBOランド」や「屋外の児童遊園」に対する改善のニーズが高いこと、「屋内仕様の遊具の追加」や「魚などの生き物とふれあえる設備の追加」が求められていることが分かった。また子育て世代や市内保育園及び小学校などの関係者を対象にワークショップを実施し、参加者からは、「魚や海を体感でき、敦賀の良さを感じられる場所にしてほしい」、「いつでも子どもたちが屋内・屋外で全身を使ってあそべるようにしてほしい」、「親が子どもを見守りやすい空間にしてほしい」などの意見が出た。

以上の課題、ニーズを踏まえ「敦賀市こどもの国」では敦賀市民をはじめ、誰でも親子で楽しめる利用しやすいインクルーシブの考え方を取り入れるとともに、隣接する気比の松原をはじめとする自然豊かなロケーションを活かした海の生き物を展示するなど、“親子”と“敦賀の自然”をテーマにこどもの国をリニューアルする。

基本方針：あそびの中でこどもの心と身体を育む空間

テーマ①：みんなで一緒にあそべる・・・「親子で一緒に」「インクルーシブ」

テーマ②：どんな時でも満喫できる・・・「天気を気にせず立ち寄れる屋内外の遊具」

テーマ③：敦賀の自然を体感できる・・・「海に近いロケーション」「生き物コーナー」

出典：「こどもの国リニューアル基本構想」（敦賀市、令和5年3月）

(2) 屋内プレイエリア整備コンセプト

上記リニューアルの基本方針を踏まえ、整備コンセプトを次のように定めた。

「屋内プレイエリア」整備コンセプト

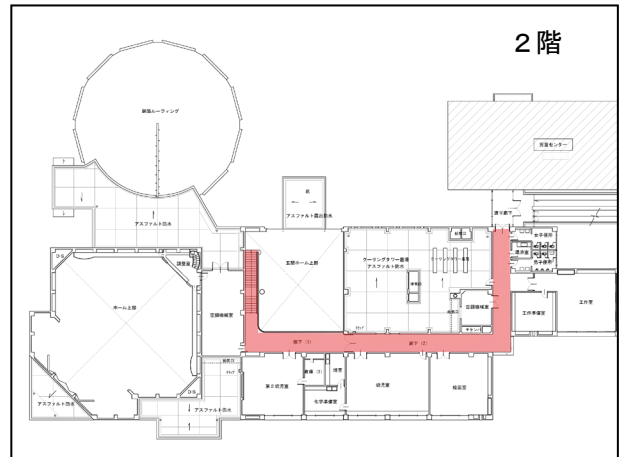
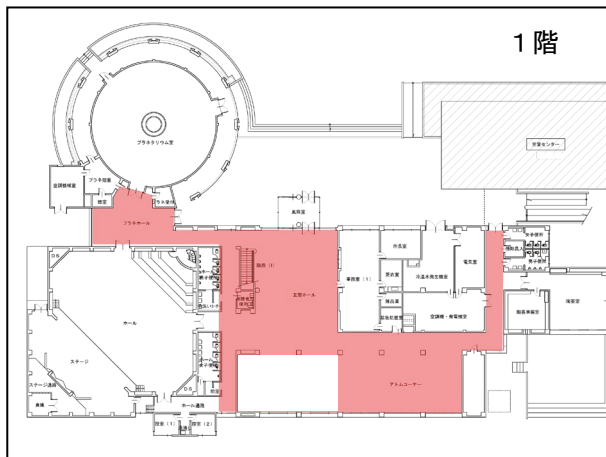
敦賀を感じられるあそびとまなびの空間づくり

◆整備の考え方

- ・遊具や映像を使った様々なあそびを体験できるエリアとする。
- ・年齢に合わせて誰もが楽しめるエリアとする。
- ・海の生き物など自然を体感することができるエリアとする。

(3) リニューアル検討エリア

屋内エリアのリニューアルは、基本構想時のニーズ調査において、改善のニーズが高い「アトム ASOBOランド」について新たな遊び機能の充実を図る。また、利用者すべてが使う玄関やエントランス等について、インクルーシブの視点も含めて必要な改善を行う。



第2章 現状の把握

1. 施設を取り巻く現状

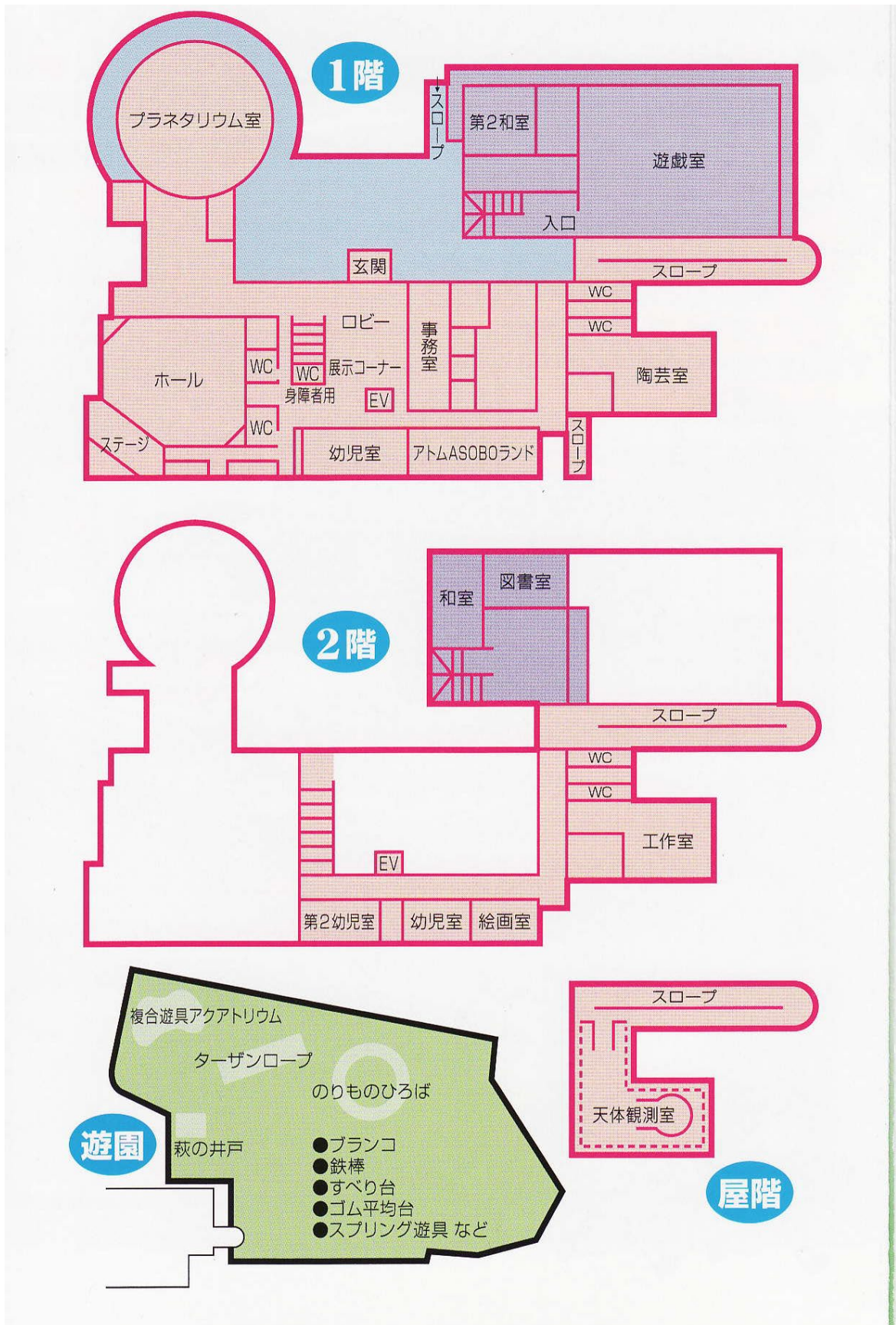
(1) 施設概要

・施設名	敦賀市こどもの国 児童文化センター
・所在地	〒914-0821 福井県敦賀市櫛川 42 号 2 番 1 TEL : 0770-25-7879
・アクセス	◆公共交通機関を利用の場合 ・コミュニティバス松原線または、中郷木崎線「松葉町」バス停下車徒歩7分 ・コミュニティバス常宮線「花城」バス停下車すぐ ◆自動車の場合 ・北陸自動車道 敦賀 I.C から約 5.2km (無料駐車場 34 台有)
・建築年	昭和 55 年 3 月 31 日
・敷地面積	12,091.75 m ²
・建物用途	児童福祉施設
・構造	鉄筋コンクリート 2 階建て
・建築面積	2,227.6 m ² (児童文化センター : 1,940.3 m ² /児童センター : 287.3 m ²)
・延床面積	3,009.8 m ² (児童文化センター : 2,596.6 m ² /児童センター : 413.2 m ²)
・開館時間	【4月1日から10月31日】午前9時から午後5時 【11月1日から翌年3月31日】午前9時から午後4時30分
・休館日	毎週月曜日・休日の翌日・12月29日から翌年1月3日
・入館料	無料



出典：敦賀市 こどもの国 HP

◆現況図



(2) 周辺環境について

敦賀市こどもの国は、敦賀市松原地区にあり、近隣には松原小学校や櫛川保育園等、こどもに関連する施設が存在する。そのため近隣在住のこどもたちをはじめとした市民からのニーズが見込まれる。

敦賀市では、子育て環境の充実を目指して子育て支援施設の整備を進めており、同様の施設である「キッズパークつるが」「多世代型ウェルネス広場」はすでに整備が完了している。この2つの施設と同様に子育て支援の充実が求められている。

また上記2施設は内陸部に設置している一方、こどもの国は敦賀湾に近接した場所にある。海に近い施設としての特徴が期待されるが、現状は海という自然環境を体感できる設備となっていない。

2. 施設機能・設備の現状

(1) 施設機能の現状

【屋内遊戯空間】

- ・ エントランス部分に関しては低年齢層のこどもが集まり、土足で遊べる空間になっている。
- ・ 幼児室、アトム ASOBO ランド内は靴を脱いで遊ぶようになっており、土足の空間と靴を脱いで遊ぶ空間が混在している。



土足で遊ぶエントランス



土足と靴下の空間の境界線

- ・ こどもの国の屋内遊戯施設である『アトム ASOBO ランド』は整備から期間が経っており、経年劣化が目立ち利用者にとって古く感じる空間になっている。
- ・ 施設のテーマが原子力に特化している。現在の利用者からは、敦賀市らしい知育を含めたあそびと学び体験ができる空間が求められている。



アトム ASOBO ランド



原子力に特化した展示

【建築設備】

- ・館内では一部、照明のLED化が進んでいない箇所がある。
- ・エントランス1Fトイレは平成25年度に改修を終えているが、おむつ交換台などの設備が使いづらく、不便な箇所がある。



一部LED化が進んでいない展示室

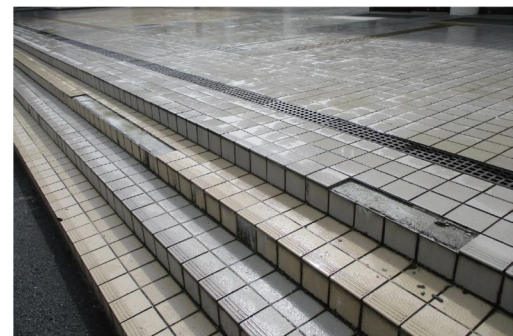


現状のおむつ替えスペース

- ・児童センター1F遊戯室の床に経年劣化が目立ち、補修が必要である。
- ・玄関前タイルに、劣化による破損が見られる。



経年劣化が目立つ遊戯室の床



劣化による破損が見られる玄関前タイル

【備品】

敦賀市こどもの国にある現状の備品に関して、調査を行った。リニューアル後も現物をそのまま残すべきもの、別空間に保管するものなど、備品の取り扱いについて整理した。

○概要

- ・自販機、ごみ箱、AEDは引き続き同じ場所に残す。
- ・ひまわりの掛け時計、ピアノは残す。設置場所については引き続き検討する。
- ・おもちゃは残すが運用場所や運用方法は引き続き検討する。

(2) 施設リニューアルに関わる法令等諸条件の整理

関連条例	概要(ポイントのみ)
建築基準法	<p>地名地番 福井県敦賀市櫛川 42 号 2 番 1</p> <p>前面道路 11.0m 敷地の接する長さ: 4.4m</p> <p>初回建築確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用途地域 都市計画区域内 工業地域 防火地域指定無し 2. 敷地面積 12,091.75㎡ 3. 建物用途 児童福祉施設 4. 建物規模 鉄筋コンクリート造 建築面積 2,227.6㎡ (児童文化センター: 1,940.3㎡/児童センター: 287.3㎡) 延床面積 3,009.8㎡ (児童文化センター: 2,596.6㎡/児童センター: 413.2㎡) 5. 建ぺい率 19.39% < 60% 6. 容積率 23.81% < 200% 7. 斜線制限 道路斜線 1.5D (20mまで) 隣地斜線 31m+ D 北側斜線・日影: 対象区域外 8. 耐火・準耐火 耐火建築物 9. 面積区画 1,500㎡以内 10. 竪穴区画 階段、これに類するものの壁及び天井の室内に面する部分の仕上げ及び下地は不燃材料とする 11. シックハウス 規制対象使用材料全て 「F☆☆☆☆」とする。 12. 内装制限 居室の天井及び壁は難燃材料以上とし、居室から地上に通じる廊下及び階段の天井及び壁は準不燃材料以上とする
消防法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工事種別 改修 2. 耐火・準耐火 耐火建築物 3. 用途 1項(ロ) 公会堂、集会場 4. 設備・消火器・屋内消火栓設備・自動火災報知設備 ・非常警報設備・誘導灯設備・非常電源設備

第3章 課題の整理

1. 課題調査の手法について

リニューアル基本計画に係る課題調査として、施設に関わる関係者及び利用者への聞き取り調査を行った。調査は下記3つの手法により実施した。

■課題調査の手法について

① 関係者ワークショップ

- ・調査方法：対面でのワークショップ形式。各回最大10名程度、計3回の実施。
- ・調査対象：敦賀市役所児童家庭課、住宅政策課、児童文化センター（こどもの国）職員、児童センター運営委員会委員、近隣保育園・小学校の保育士・教諭
- ・調査日程とテーマ

	日時	テーマ
第1回	令和5年10月19日	・各エリア展示案に対する意見 ・現状設備の課題抽出
第2回	令和5年11月7日	・各エリア展示案に対する意見 ・現状設備の課題抽出
第3回	令和5年11月16日	・第1回、2回で意見の出なかった箇所の意見抽出 ・ワークショップ意見の振り返り

② WEBアンケート

- ・調査方法：インターネット回答
- ・調査対象：福井県、もしくは滋賀県湖北地方に在住、かつ中学生以下のこどもを持つ保護者
- ・調査期間：令和5年11月6日～11月17日
- ・調査手順と設問内容：

以下の2ステップにより実施

◇ステップ1：スクリーニング調査

居住地、同居するこどもの年齢に関する設問により、本調査の対象者を絞り込むためのスクリーニングを行う。

◇ステップ2：「こどもの国」にまつわる本調査

施設利用者、もしくは利用可能性のある層がリニューアルに期待する内容や展示を調査する。

③ 利用者フィードバック（模型展示とアンケート）

- ・調査方法：紙アンケートの配布、館に展示したパネルへシールを貼る参加型投票
- ・調査対象：期間中「敦賀市こどもの国」に来館した利用者
- ・調査期間：令和5年12月1日～12月21日
- ・質問内容：新計画への意見・感想。敦賀の「すてき！」だと思ふモノ、コト。

2. 課題調査結果

(1) 関係者ワークショップ

1) 調査結果

◇計3回の意見概要

●エントランスについて

- ・靴の運用に関する意見
 - 「ベビーカーは荷物の入れ替え等が大変なので、そのまま中に入れる方がいい。」
 - 「団体来館時に対応できる靴ぬぎスペース、靴箱は確保できるか」
 - 「上履きが必要なエリア（陶芸室、トイレなど）や一部屋外に出る動線はどう対応するか」
- ・遊具に関する意見
 - 「シンボルツリーなど高さがあるものは人・物の落下防止対策が必要」
 - 「ボールプールは衛生面的にない方がよい。（汚れ、清掃が大変なため）」
 - 「シンボルツリー以外に小さい子が遊べるエリアをつくっては」
 - 「体を動かす以外に、絵をかいたりして遊ぶこどももいる」
 - 「机でする遊びは塗り絵などが人気」
- ・備品・運営に関する意見
 - 「現在のエントランス飾りつけは基本職員で行っている。」
 - 「天井付近のかざりつけ、簡単に取り付けできるようにしてほしい。」
 - 「現在ピアノが置いてあり、来館者からの利用頻度も高いので活用してほしい。」
 - 「ボードゲームなどはパーツが細かいので紛失、誤飲の恐れがある」
 - 「おもちゃの片づけはできれば自主的にしてもらえる仕組みにしたい」
 - 「デジタルサイネージにプラネタリウムの上映時間、コンテンツ等を表示したい。」

●アトムASOBOランドについて

- ・水槽展示に関する意見
 - 「年末年始、スタッフ不在時のお世話が心配。」
 - 「金魚でなく敦賀の魚だと嬉しい。」
 - 「水辺、水槽ゾーンの臭い対策などをどうするか」
- ・年齢の住み分けに関する意見
 - 「乳児用コーナーをリニューアルコンセプトに合った形で設けられないか。ハイハイしているさまを池で泳いでいるように見立てたりなど。」
- ・親の見守りに関する意見
 - 「スマホを一生懸命見ている親も多いので、親の責任が大きいが見守るスペースは大事にしたい」
 - 「逆に、子どもが隠れる秘密基地のような要素は大事にしたい。」
- ・デジタルコンテンツについて
 - 「デジタルコンテンツはこわれやすいことが懸念点。自由に触れる運用にして問題ない」

か。」

—「クリスマスだとサンタを描くなど、季節的なテーマを盛り込んでも良いかも」

●総合

・運営面に関する意見

—「団体利用時、雨天だと屋内で待機する場所が限られるため、プラネタリウムを利用するなどの工夫が必要」

・安全面・バリアフリーに関する意見

—「最初は自由に遊んで良いとなっているが、使用が進むにつれて、ルール事項が増えていく。それは子どもたちにとってよくない。」

—「サインも「〇〇禁止」という表現ではなく、「〇〇に気を付けて使いましょう」と促すサインにしたい」

—「車椅子の人が参加できるものがあればいいのでは」

・年齢の住み分けに関する意見

—「乳幼児と小学生以上の遊ぶエリアを分けてほしいという声がある」

—「逆にきょうだい連れの子など異なる年齢層の子どもを同じエリアで見守りたいという声もある」

—「年齢層の違う子どもが同じ空間で遊ぶことで衝突の可能性もあるが、他の子どもと交流できるのは良いことだと思う。」

—「年齢別にエリアを柵で区切ると、きょうだいで遊べない等使い勝手がよくないのではないか」

・設備に関する意見

—「市内の施設はLEDに変わっている。一部だけでなく諸室全体LEDにしたい」

—「建物の中に防犯カメラが2台あるが録画機能がないのでスタッフの見回り以外にも見守りできる機能が欲しい」

2) 関係者ワークショップ意見の傾向と課題

- ・ 関係者ワークショップで挙げた代表的な課題は「年齢層の住み分け」「靴の運用」「安全性」「現状設備の改修と活用」である
- ・ 「年齢層の住み分け」は安全性を求めて対象年齢ごとにゾーニングを求める声がある一方、柵などで明確に区切るのは使い勝手が良くないという意見もある。
- ・ 「靴の運用」について、靴を脱ぐことに肯定的な意見が多い一方、館内土足エリア（トイレ・陶芸室等）や屋外通路への動線などが課題である。
- ・ 「安全性」については、高所の遊具は人・物の落下に気を付けるようにとの意見があった。また命令口調の禁止事項ではなく、「〇〇しましょう」のように子どもたちの自主性を促すようなサインであるべきとの意見があった。
- ・ 「現状設備の改修と活用」については、照明等館内設備の老朽化・改修を求める声が上がった。また現状備品のおもちゃなどは、需要があるため、リニューアル後も活用できるような計画を求める声がある。

(2) WEBアンケート結果概要

1) 配信、回収状況

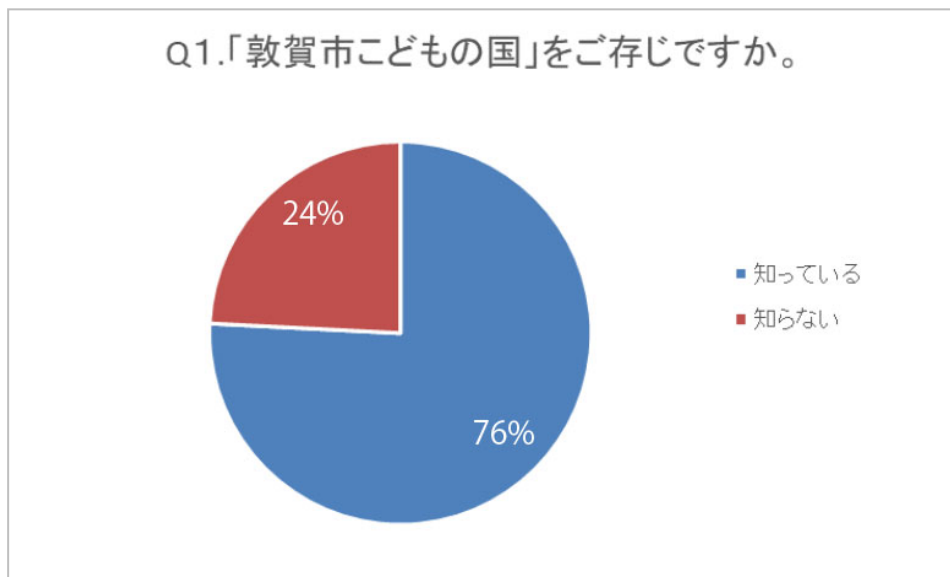
- ・総配信(配布)数：8,250件
- ・回収数：831件
- ・内訳：アンケート配信サイトからの回答サンプル数：300
 コドモン・案内チラシからの回答サンプル数：531

2) 調査結果

◇ステップ2：「こどもの国」にまつわる本調査より

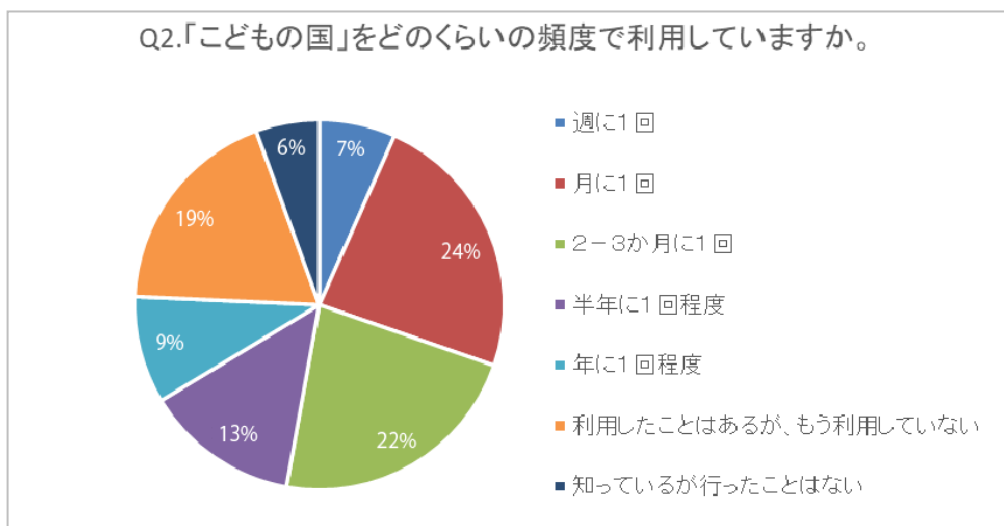
Q1. 「敦賀市こどもの国」をご存じですか。

「知っている」と回答したのが76%、「知らない」と答えたのが24%である。



Q2. 「こどもの国」をどのくらいの頻度で利用していますか。

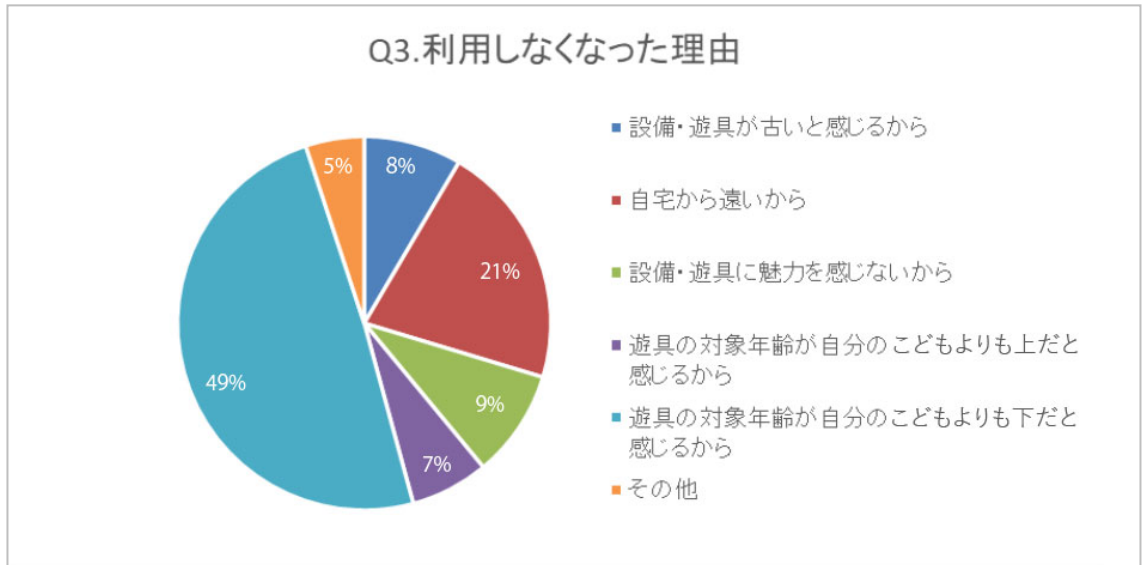
最も多いのが「月に1回」(24%)、その次に「2-3か月に1回」(22%)「半年に1回程度」(13%)と続く。「利用したことはあるがもう利用していない」層は19%、「利用したことがない」層は6%いる。



Q3. 利用しなくなった理由

(Q2で「利用したことはあるが、もう利用していない」を選択した回答者が対象)

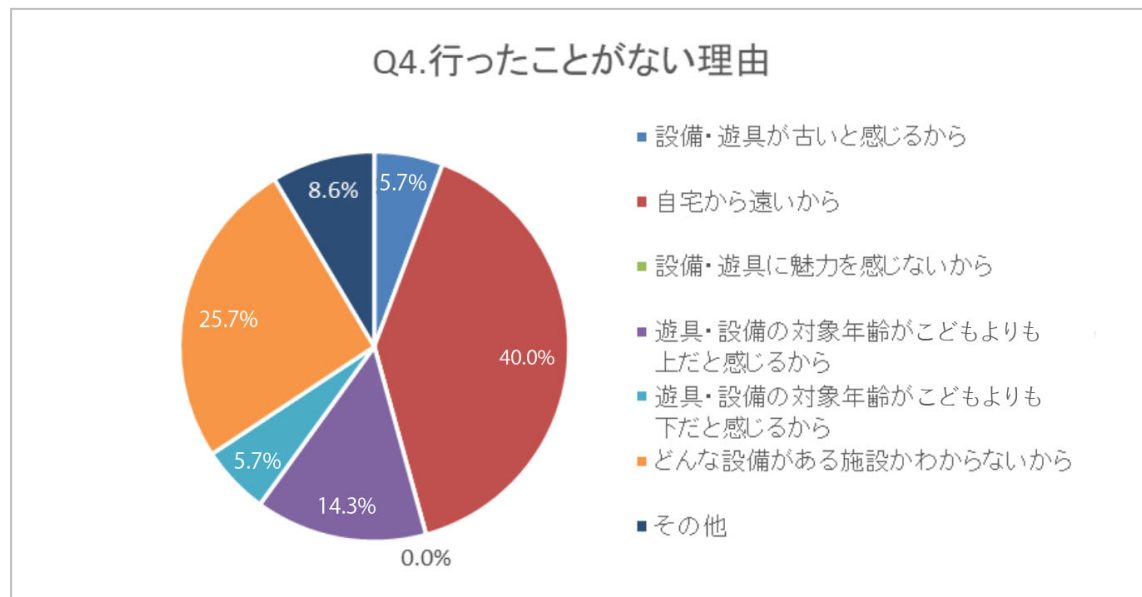
最も多いのは「遊具の対象年齢が自分のこどもよりも下だと感じるから」(49%)。その次に「自宅から遠いから」(21%)、「設備・遊具に魅力を感じないから」「設備・遊具が古いから」(9%)と続く。



Q4. 行ったことがない理由

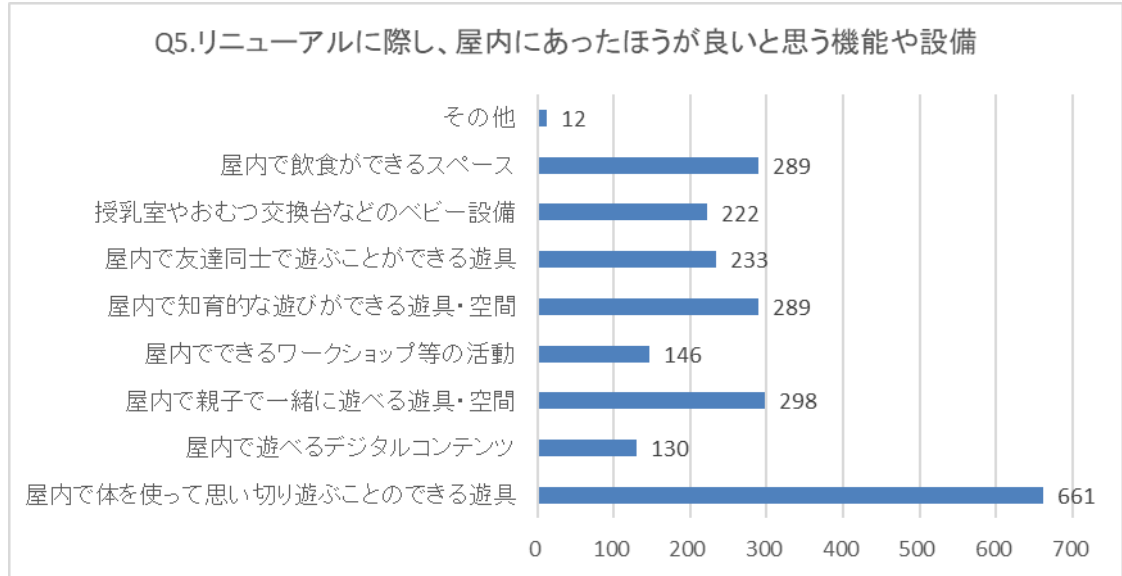
(Q2で「知っているが行ったことがない」を選択した回答者が対象)

最も多いのが「自宅から遠いから」(40.0%)、その次に「どんな設備がある施設かわからないから」(25.7%)、「遊具・設備の対象年齢が自分のこどもよりも上だと感じるから」(14.3%)と続く。



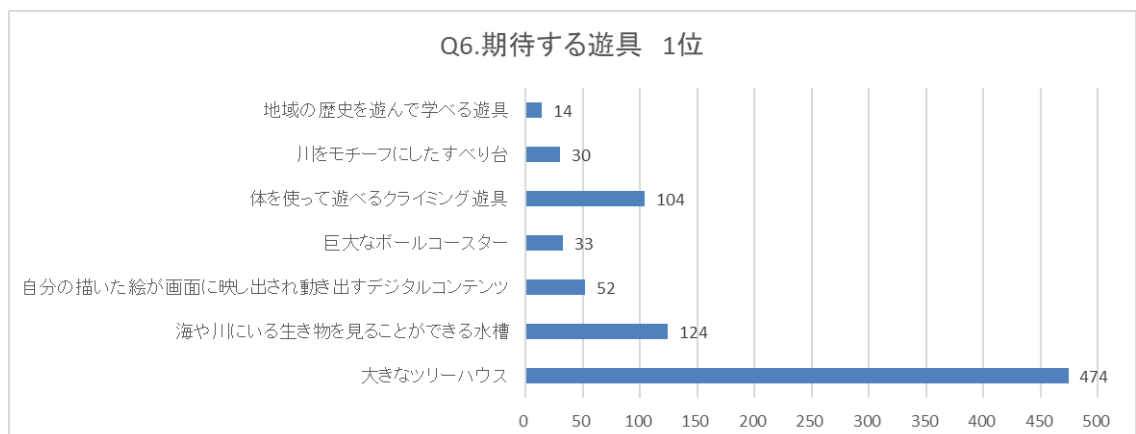
Q5. リニューアルに際し、屋内にあったほうが良いと思う機能や設備（複数選択）

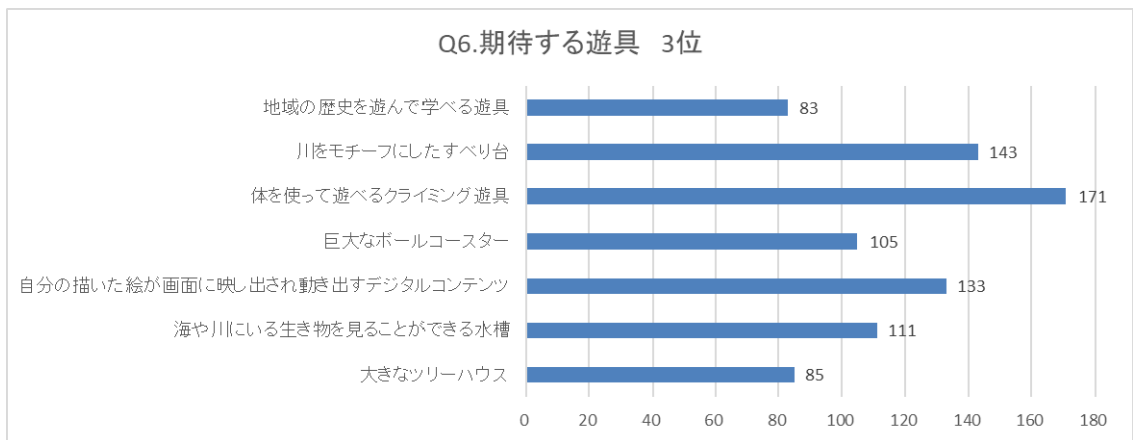
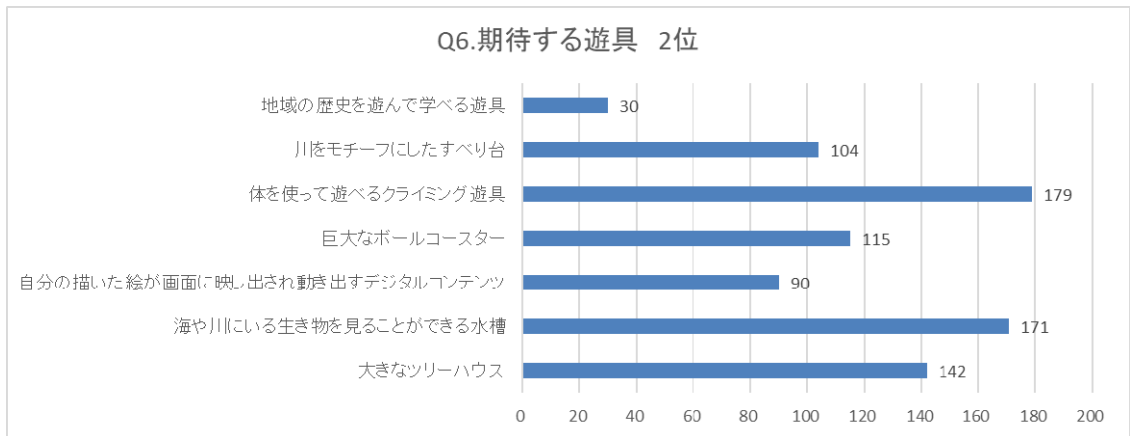
最も多いのは「屋内で体を使って思い切り遊ぶことのできる遊具」（661票）、その次に「屋内で親子で一緒に遊べる遊具・空間」（298票）、「屋内で知育的な遊びができる遊具・空間」「屋内で飲食ができるスペース」（289票）と続く。



Q6. 期待する・興味がある遊具を1位～3位まで教えてください。

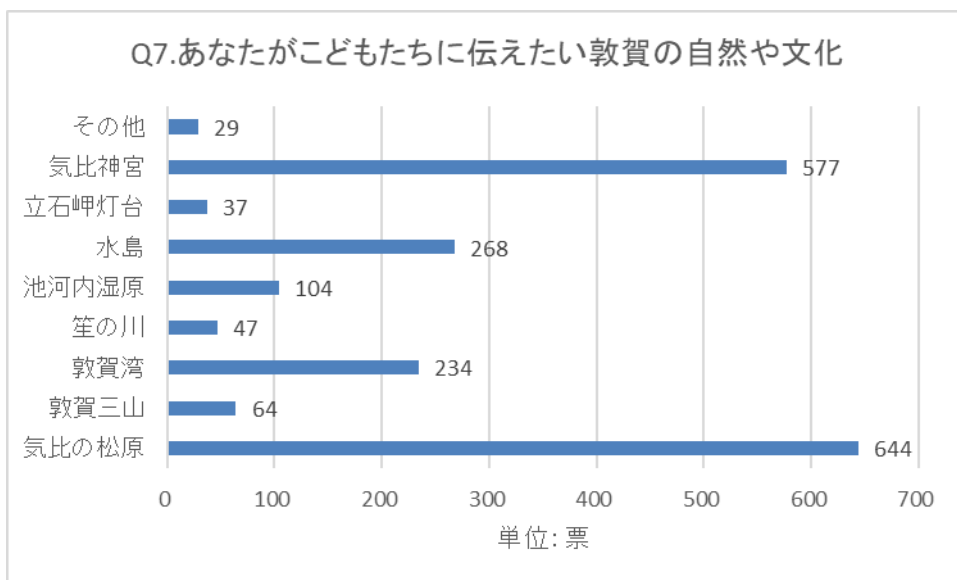
1位で最も得票数が多かったのは「大きなツリーハウス」（474票）であった。2位で得票数が多いのは「体を使って遊べるクライミング遊具」（179票）、「海や川にいる生き物を見ることができる水槽」（171票）であった。3位で得票数が多いのは「体を使って遊べるクライミング遊具」（171票）、次いで「川をモチーフにしたすべり台」（143票）であった。





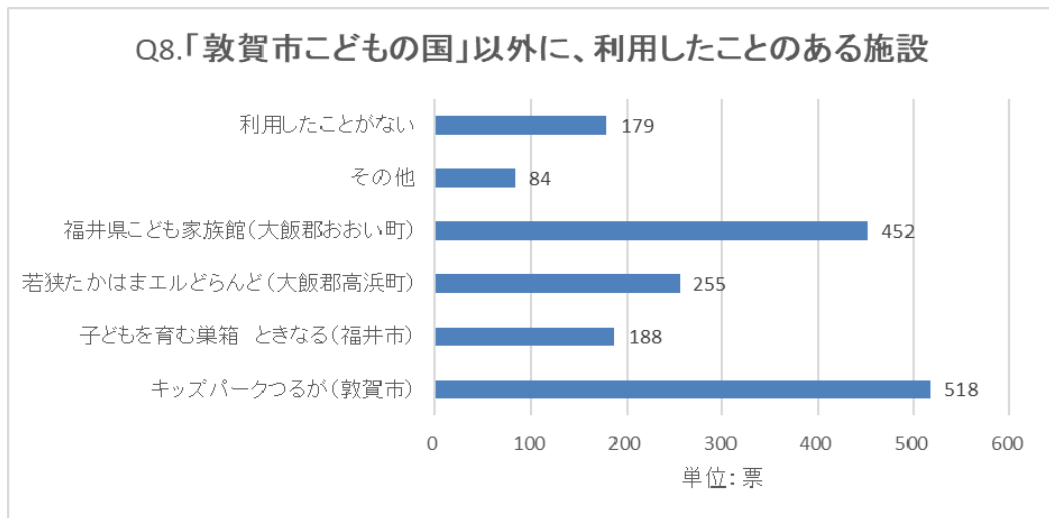
Q7. あなたが子どもたちに伝えたい敦賀の自然や文化を教えてください。

最も多いのが「気比の松原」（644票）、その次に「気比神宮」（577票）、「水島」（268票）と続く。



Q8. 「敦賀市こどもの国」以外に、利用したことのある施設。

最も多いのが「キッズパークつるが」（518票）、その次に「福井県こども家族館」（452票）、「若狭たかはまエルどらんど」（255票）と続く。



Q9. 上記施設を利用して良かった点又は良くなかった点を教えてください。(自由記述)

以下概要。

●キッズパークつるが

- ・天気が悪い日でも遊べる。
- ・体を思い切り動かして遊べる、砂遊びができる。
- ・0-2歳が遊べる場所が少ない。

●こども家族館

- ・大きなボールプールが楽しい
- ・夏場は空調が効いておらず、暑くて長居できなかった
- ・小さい子向け、大きい子向けの遊具が分けられていた。

●若狭たかはまエルどらんど

- ・屋内アスレチックがあるのが良い。
- ・屋内に自然があるのがよい。
- ・体を動かす遊びと、手を動かす遊びが両方あるのが良かった。

●ときなる

- ・木のぬくもりに触れられるのが良い。
- ・乳幼児は遊べるが、小学校以上のこどもは楽しめないかもしれない。
- ・料金が低い。

Q10. 「こどもの国」への要望、提案(自由記述から要約)

●安全性

- ・現状のスタッフの方の見守りの時間を継続できるような空間計画が必要。
- ・遊具における危険箇所の排除や段差の少ない構造など、遊びの中で子どもたちの怪我を予防する遊具や什器の計画が必要
- ・施設の出入口等での事故を防ぐような対策も必要

●イベント

- ・月毎のイベントは継続して行って欲しいと要望があるため、リニューアル後でも同様にイベントを継続できる計画が必要
- ・プラネタリウムが暗く怖い印象があるため、明るい印象とする必要がある。
- ・定員によって予約が取れない人がいるため、イベント時の参加人数の定員を増やすなど多くの来館者の方に参加いただける工夫や運営方法が必要

●運営

- ・遊具の故障や電池が切れた場合にスタッフによるメンテナンスが行いやすい仕様とする必要がある。
- ・メンテナンスや操作が行いやすい什器、コンテンツの仕様とし、現状のスタッフの人数で運営が行えるようなリニューアル計画が必要

●遊具・屋内

- ・新しい遊具や施設の導入を行いつつ、既存のおもちゃや遊具に配慮した遊びのスペースを計画する必要がある。
- ・特に雨の日や冬の寒い日でも思い切り遊べる場所として、体を動かせるスペースや新しい遊び道具の導入が必要
- ・ベビーカーが通れる通路幅や、見守りやすい配置など保護者の方も過ごしやすい空間とする必要がある。

●継続性

- ・リニューアル後、何度も行きたくなるような施設を目指して、遊具や運営システム、イベントを計画する必要がある。

●広報

- ・施設やイベントについての情報発信が不足していると感じるとの声があり、LINEなどのSNSを活用して、幅広い人々に施設の魅力やイベント情報を提供することが求められている。

●設備

- ・おむつ交換台、トイレチェアを設置し、保護者、こどもの両方が使いやすい設備を検討する必要がある。
- ・室内の明るさの向上や換気に考慮し、施設内の臭いや暗さに配慮する必要がある。

●対象年齢

- ・小学校高学年などのこどもたちも遊べる屋内施設の整備が求められている。
- ・低学年のこどもたちも簡単に遊べるような遊具が必要

●年齢層の住み分け

- ・年齢別に遊ぶ場所を分け、各年齢層が楽しめるエリアを提供する必要がある。
- ・きょうだい連れの保護者などは異年齢のこどもたちが共存して遊べる空間が見守りやすいため、異年齢のこどもたちが一緒に遊べる空間も必要になる。
- ・小学生以上のこどもたちが思い切り遊べる場所や遊具が必要。

●ユニバーサルデザイン

- ・おむつ交換台を男女トイレに備えるなど誰もが使いやすいトイレを計画する必要がある
- ・障がいのある方や、車椅子の方でも楽しく遊ぶことができる空間計画が必要

●料金

- ・リニューアル後も料金設定に関しては引き続き無料を目指す必要がある。

●駐車場

- ・繁忙期には駐車場台数の不足が課題点としてあげられる。

◇「こどもの国」を利用したことがない層についての分析

①認知度と居住地の関係について

Q1 「敦賀市こどもの国」をご存じですか。(SA)

		該当数	知っている	知らない	
全体		831 100.0	630 75.8	201 24.2	
SC3 あなたのお住まい(都道府県)をお知らせください。	福井県	771 100.0	612 79.4	159 20.6	
	三重県	0 100.0	0 0.0	0 0.0	
SC4 あなたのお住まいの市町村をお知らせください。	あわら市	6 100.0	0 0.0	6 100.0	→該当数に対し認知度が2割未満
	池田町	0 100.0	0 0.0	0 0.0	
	永平寺町	6 100.0	2 33.3	4 66.7	
	越前市	23 100.0	7 30.4	16 69.6	
	越前町	8 100.0	2 25.0	6 75.0	
	おおい町	2 100.0	1 50.0	1 50.0	
	大野市	14 100.0	1 7.1	13 92.9	→該当数に対し認知度が2割未満
	小浜市	6 100.0	4 66.7	2 33.3	
	勝山市	3 100.0	1 33.3	2 66.7	
	坂井市	30 100.0	4 13.3	26 86.7	→該当数に対し認知度が2割未満
	鯖江市	28 100.0	15 53.6	13 46.4	
	高浜町	4 100.0	3 75.0	1 25.0	
	敦賀市	553 100.0	552 99.8	1 0.2	→敦賀市内の認知度は高い
	福井市	76 100.0	11 14.5	65 85.5	→該当数に対し認知度が2割未満
	南越前町	2 100.0	1 50.0	1 50.0	
	美浜町	4 100.0	4 100.0	0 0.0	
	若狭町	6 100.0	4 66.7	2 33.3	
	米原市(滋賀県)	10 100.0	2 20.0	8 80.0	
	長浜市(滋賀県)	37 100.0	13 35.1	24 64.9	
	高島市(滋賀県)	13 100.0	3 23.1	10 76.9	

※上段は回答者数(人)、下段は構成比率(%)

【傾向】

- ・敦賀市内の認知度はほぼ100%
- ・認知度が2割を切っているのはあわら市、大野市、坂井市、福井市
→嶺北、奥越地域での認知度が低い。
→敦賀市から遠く、他県が隣接している地域は認知度が低い

【考察と課題】

- ・他県と隣接する地域は、敦賀市をこどもの外出先を選びにくいのでは
- ・認知度を上げ利用可能性のある層を広げるには嶺北、奥越地域への広報アプローチが課題。

②行ったことがない理由と居住地の関係

Q4 行ったことがない理由について、最も当てはまるものを1つお選びください。(SA)

		該当数	設備・遊具が古いと感じるから	自宅から遠いから	設備・遊具に魅力を感じないから	自分のこどもよりも上だと感じるから	遊具・設備の対象年齢が自分より下だと感じるから	遊具・設備の対象年齢が自分より下だと感じるから	わからないから	どんな設備がある施設かわからないから	その他
全体		35 100.0	2 5.7	14 40.0	0 0.0	5 14.3	2 5.7	9 25.7	3 8.6		
Q2 「こどもの国」をどのくらいの頻度で利用していますか。	知っているが行ったことはない	35 100.0	2 5.7	14 40.0	0 0.0	5 14.3	2 5.7	9 25.7	3 8.6		
SC4	あわら市	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	池田町	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	永平寺町	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	越前市	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	越前町	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	おおい町	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	大野市	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	小浜市	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	勝山市	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	坂井市	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	鯖江市	5 100.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高浜町	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	敦賀市	9 100.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	4 44.4	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0 0.0
	福井市	3 100.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	南越前町	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	美浜町	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	若狭町	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	米原市(滋賀県)	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	長浜市(滋賀県)	6 100.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高島市(滋賀県)	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	上記以外	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※上段は回答者数(人)、下段は構成比率(%)

【傾向】

- ・ 行ったことがない理由として、全体では「自宅から遠いから」を選んだ回答者が最も多いが、敦賀市在住は該当しなかった。
- ・ 敦賀市在住で最も多かったのは「遊具・設備の対象年齢が自分のこどもよりも上だと感じるから」

②+α 敦賀市在住かつ利用したことがない層の子ども年齢

		該当数	乳児 (0歳)	幼児 (1歳～6歳)	小学校低学年 (1年生～3年生)	小学校高学年 (4年生～6年生)	中学生	高校生以上
全体		831	97	486	302	228	154	95
		100.0	11.7	58.5	36.3	27.4	18.5	11.4
敦賀市在住×行ったことがない×理由	設備・遊具が古いと感じるから	2	1	2	0	1	1	0
		100.0	50.0	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	自宅から遠いから	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	設備・遊具に魅力を感じないから	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	遊具・設備の対象年齢が自分の子どもよりも上だと感じるから	4	4	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
遊具・設備の対象年齢が自分の子どもよりも下だと感じるから	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
どんな設備がある施設かわからないから	1	0	1	0	0	0	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

※上段は回答者数(人)、下段は構成比率(%)

【備考】

- ・「対象年齢を上」と感じているのは、乳児の子を持つ親。

【課題と考察】

- ・敦賀市在住者の満足度を上げるには、乳児が過ごしやすい設備が求められているのではないかと。

③以前利用していたがもう利用しなくなった層

Q3 利用しなくなった理由について、最も近いものを1つお選びください。(SA)

		該当数	設備・遊具が古いと感じるから	自宅から遠いから	設備・遊具に魅力を感じないから	遊具の対象年齢が自分のこどもよりも上だと感じるから	遊具の対象年齢が自分のこどもよりも下だと感じるから	その他
全体		118	10	25	11	8	58	6
		100.0	8.5	21.2	9.3	6.8	49.2	5.1
Q2 「こどもの国」をどのくらいの頻度で利用していますか。	利用したことはあるが、もう利用していない	118	10	25	11	8	58	6
		100.0	8.5	21.2	9.3	6.8	49.2	5.1
SC4 あなたのお住まいの市町村をお知らせください。	あわら市	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	池田町	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	永平寺町	1	0	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	越前市	2	0	2	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	越前町	1	0	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	おおい町	1	0	0	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	大野市	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小浜市	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	勝山市	1	0	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	坂井市	1	0	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鯖江市	8	0	5	0	0	3	0	
	100.0	0.0	62.5	0.0	0.0	37.5	0.0	
高浜町	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
敦賀市	91	9	9	11	7	51	4	
	100.0	9.9	9.9	12.1	7.7	56.0	4.4	
福井市	2	0	0	0	0	0	2	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
南越前町	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
美浜町	1	0	0	0	1	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
若狭町	1	0	1	0	0	0	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
米原市(滋賀県)	1	0	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
長浜市(滋賀県)	6	1	4	0	0	1	0	
	100.0	16.7	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	
高島市(滋賀県)	1	0	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

※上段は回答者数(人)、下段は構成比率(%)

【傾向】

- ・最も多い回答は「遊具の対象年齢が自分のこどもよりも下だと感じるから」
- ・敦賀市在住で最も多いのは「遊具・設備の対象年齢が自分のこどもよりも下だと感じるから」

④ +α 敦賀市在住かつもう利用しなくなった層の子ども年齢

		該当数	乳児 (0歳)	幼児 (1歳～6歳)	小学校低学年 (1年生～3年生)	小学校高学年 (4年生～6年生)	中学生	高校生以上
全体		831 100.0	97 11.7	486 58.5	302 36.3	228 27.4	154 18.5	95 11.4
敦賀市在住×現在利用無し	設備・遊具が古いと感じるから	9 100.0	2 22.2	7 77.8	2 22.2	2 22.2	1 11.1	1 11.1
	自宅から遠いから	9 100.0	1 11.1	6 66.7	2 22.2	1 11.1	2 22.2	0 0.0
	設備・遊具に魅力を感じないから	11 100.0	1 9.1	7 63.6	5 45.5	3 27.3	0 0.0	1 9.1
	遊具・設備の対象年齢が自分の子どもよりも上だと感じるから	7 100.0	2 28.6	4 57.1	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3
	遊具・設備の対象年齢が自分の子どもよりも下だと感じるから	51 100.0	1 2.0	4 7.8	18 35.3	39 76.5	23 45.1	8 15.7

※上段は回答者数(人)、下段は構成比率(%)

【備考】

- ・ 小学校低学年、高学年、中学生を子にもつ親は「対象年齢が下」と感じている傾向にある
- ・ 対して幼児を子に持つ層は「対象年齢が上」と回答している人もいる。

【考察と課題】

- ・ 小学校以上の子どもを対象年齢にした遊具・設備を強化することが、利用可能性のある層を引き込むのに有効ではないか。

(3) 利用者フィードバック結果

1) 回収状況

- ・ 記入式アンケート回収数：76件
- ・ 参加型投票パネル総得票数：243票

※1人につき3票まで投票可能。記入式アンケート用紙1枚につき3枚の投票シールを配布した。

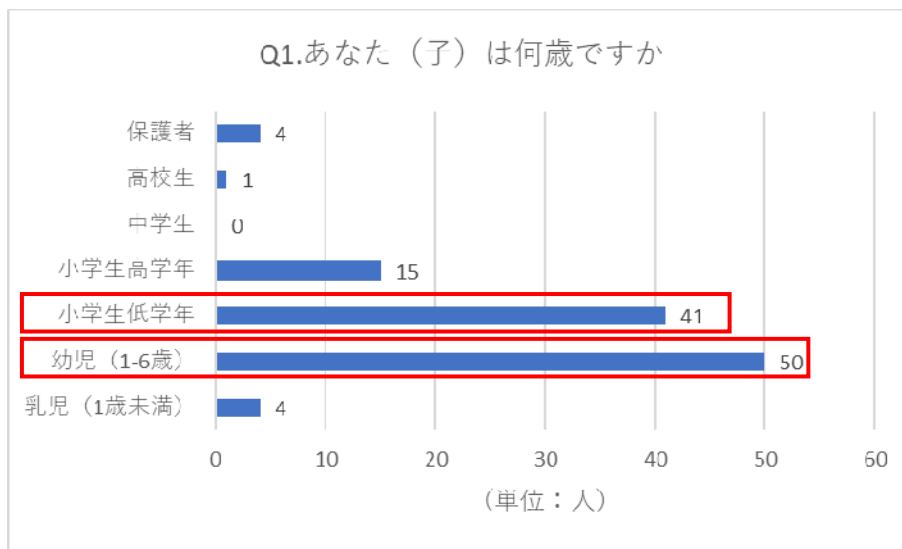
※243票÷3=81人が投票したことになり、記入式アンケートの回収数との差異が生じるが、アンケートには記入せず、参加型パネルのみに投票した来館者がいると考えられる。

2) 調査結果（概要）

□ 記入式アンケート

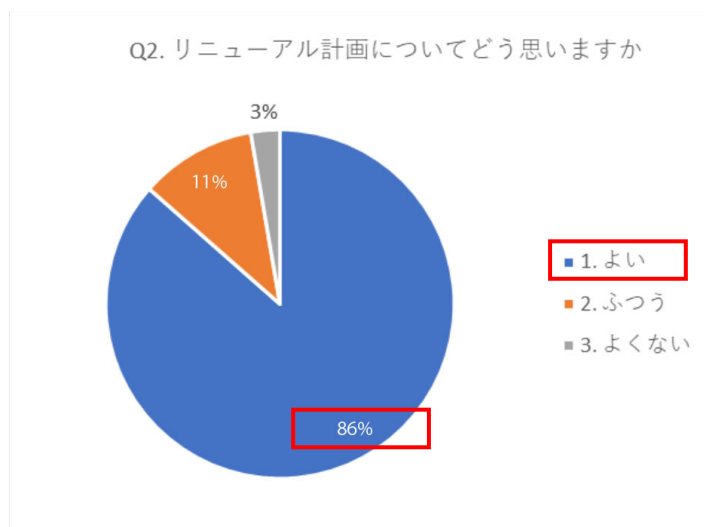
Q1. あなた（子）は何歳ですか。

利用している年齢層で最も多いのは小学生低学年、その次に幼児層であった。



Q2. リニューアル計画についてどう思いますか。

86%が「よい」と回答。次いで「ふつう」が11%、「よくない」が3%であった。



Q3. なぜそう思いますか。(自由記述回答)

自由記述の概要は以下の通りである。(※表記はアンケート回答原文に準拠する)

●「よい」と回答した層

- ・新しくなることに期待する意見 13件
 - 「新しくなるのがわくわくする」
 - 「新しい遊具で遊びたい」
 - 「新しくなり安全に遊べそう」
- ・老朽化した設備が改修されることに期待する意見 9件
 - 「今の状態が古いから」
 - 「老朽化が著しい」
 - 「きれいになると遊びやすい」
- ・遊具、あそびが増えることに期待する意見 7件
 - 「あそびばが増えるから」
 - 「さらにあそびが追加される」
- ・屋内のあそび場が充実することに期待する意見 7件
 - 「市内に室内で遊ぶ所が少ないから」
 - 「雨の日でも身体を動かせるあそびばが欲しかった」
- ・幅広い年代の子どもが遊べることに期待する意見 4件
 - 「幼児から児童までいろいろな年代の子どもが遊べそう」
- ・その他
 - 「おもいっきり遊べそう」「広々遊べそう」 4件
 - 「敦賀の松や海など地域や自然がテーマになっている」 4件
 - 「ツリーハウスが楽しそう」 2件
 - 「楽しそうだから」 5件

●「ふつう」と回答した層

- 「できてみないとわからない」 1件
- 「たまにしかこないから」 1件
- 「ふつうだとおもったから」 1件

●「よくない」と回答した層

- 「小さな子どもたちだけではなく、12才くらいでも遊べるようなふいんきではなさそうだから。」 1件
- 「今のほうが楽しいし、絵画クラブや工作クラブ、いろんなクラブがなくなってしまうのがいやだから(工事で)」 1件

Q4. あなたの思う敦賀の「すてき！」を教えてください（自由記述回答）

自由記述の概要は以下の通りである

- 「自然」に関する回答 30件
 - 「海」に関する意見 19件
 - 「山（野坂山、三内山）」に関する意見 11件
 - 「気比の松原」に関する意見 7件

- 「食べ物」に関する意見 18件
 - 「カニ」
 - 「魚」
 - 「おすし」
 - 「昆布」

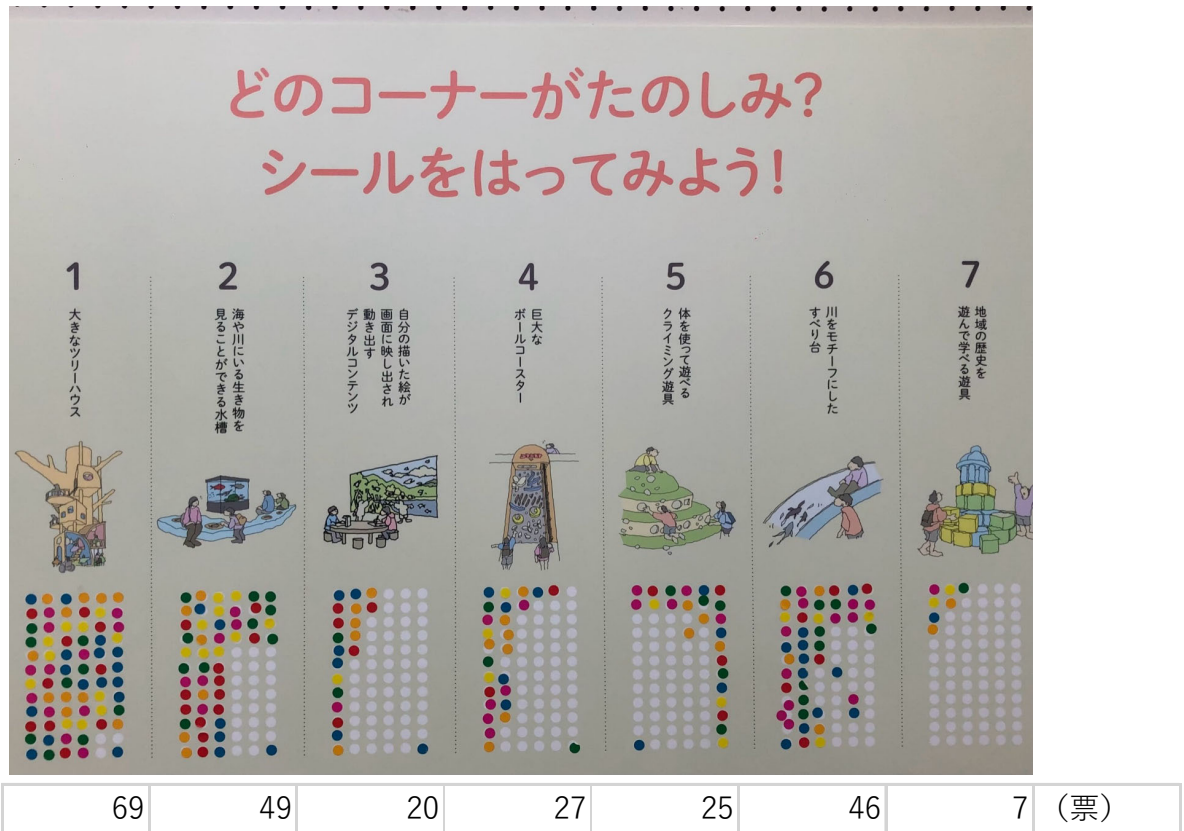
- 敦賀市内にある施設に関する意見 5件
 - 「あっとほうむ」
 - 「こどもの国」

- 「気比神宮」に関する意見 4件

- 「イベントが多い」 3件
 - 「ちえなみきもえきのよこに作られたりえき前でイベントが多いから」
 - 「つるがまつり、花火大会、イベント多い」

□参加型投票パネル

Q. どのコーナーがたのしみ？シールをはってみよう！



「大きなツリーハウス」（69票）が最も多く、その次に「海や川にいる生き物を見ることが出来る水槽」（49票）、「川をモチーフにしたすべり台」（46票）と続いている。

3) 利用者フィードバック調査からみる傾向と課題

- ・今回フィードバック調査に参加した層は、幼児層・小学校低学年層もしくはその保護者が多くみられた。
- ・リニューアル計画については多くの回答者が「よい」と感じており、「施設が新しくなる」「既存設備の老朽化が解消される」「屋内のあそび場が充実する」ことが期待されている。
- ・一方で「12才くらいでも遊べるような雰囲気ではなさそうだから」「クラブ活動が工事によりがなくなってしまうのがいやだから」といった懸念の声も上がっている。
- ・「山」や「海」「気比の松原」といった自然に敦賀らしさを感じている利用者が多くみられた。
- ・リニューアル計画で大きく注目を集めたコーナーは「大きなツリーハウス」「海や川にいる生き物を見ることが出来る水槽」「川をモチーフにしたすべり台」であった。

(4) 課題の考察

3つの課題調査にて挙げた代表的な課題は以下の通りである。

●年齢の住み分け

- ・乳幼児と小学生以上の児童が同エリアで遊ぶことの危険性（衝突や遊具の占領）を懸念する声が多くみられる
- ・一方、きょうだい連れで来館する親子は、年齢により明確なエリア分けがされてしまうと、保護者の見守りが難しくなるといった問題が挙げられている。
- ・対象年齢によってエリアを分けつつも、柵などで明確な区切りをつくらずに、幅広い年代の子どもが安全に遊べるゾーニングが課題である。

●遊具の対象年齢

- ・以前まで利用していたがもう利用しなくなったと回答した層は、小学生高学年以上の子を持つ親が多くみられた。
- ・長い期間、施設を利用してもらうには、幅広い年代の子どもを受け入れられる遊具・設備が求められる。
- ・現状利用者が多い、幼児～小学校低学年層にターゲットを絞るか、現在利用の少ない乳児、小学校高学年以上の層を対象とした設備を強化するかが課題である。

●遊具の安全性・継続性

- ・今回のリニューアルで一番期待されていることは、屋内で体を思い切り動かせる何度も楽しめる遊具である。
- ・安全性を重視する中で、実際に遊具を運用開始してから禁止事項が増えることに対して懸念の声が挙げられている。途中から制限・利用中止にならないような設計・運用上の対策が必要。
- ・継続して来館してもらうには、「一回遊んで終わり」ではなく何度も楽しめる遊具・設備が求められている。

●靴の運用について

- ・館内で靴を脱ぐことには、肯定の意見が多くみられる。
- ・団体来館時にエントランスの靴箱を使うことによる渋滞が懸念される
- ・一部上履きが必要なエリアなどがあるため、館内動線の工夫が課題である。

●来館がない層の取り込み

- ・来館経験がない層の多くは、敦賀市外在住のため施設が遠く館内の様子がわからないことを理由にしていた。ただリニューアル後の施設・設備に興味を示す声が多くみられたため、市内もしくは福井県内に広報等で広めることは来館者を増やすことに効果的と考えられる。
- ・一方敦賀市内在住で来館経験がない市民層は、乳幼児にとって使いやすい遊具や設備が不足していることを理由にしていた。おむつ交換台などベビー設備の充実が求められている。

3. 類似施設調査

(1) 類似施設調査 概要

・調査概要と目的

リニューアル後の屋内遊具の安全面を確保するための施設づくりの工夫や、異年齢が同一空間で遊ぶ際の年齢層の住み分け方法、水槽設置後の運営方法、ランニングコストの算出などに関する先進的な知見を得るため、類似施設に対するヒアリング・現地視察調査を行った。

■ヒアリング調査 概要

本施設のリニューアルにあたり、3つの視点から参考となる類似施設を選出し、ヒアリング調査を行った。

・対象施設

①屋内遊具のある施設

屋内に大型遊具を有する児童施設の事例。(※公園や屋外遊具のみの施設は除外する。)

―三重県総合博物館こども体験展示室

―和光市総合児童センターわびあ

②水槽の設置に参考になる施設

水族館施設ではない、飼育専門スタッフを有せず、小規模な水槽展示を行っている施設の事例。今回は海水魚の展示を行う下記2施設を事例として設定した。

―道の駅 大谷海岸

―道の駅 硯上の里おがつ

③年齢層の住み分けの参考になる施設

対象年齢の制限を厳格に設定せず、異年齢のこどもが共存して安全に遊べる児童施設の事例。

―保内児童センターだんだん

―山形市南部児童遊戯施設コパル

・調査方法

―インターネットを活用した基本情報の調査

―メール・電話による質問事項のヒアリング調査。

・調査期間

2023年12月～2024年2月

■現地視察調査概要

6つの施設の中から、2つの施設に対して現地視察調査を行った。

・令和6年2月19日(月) …和光市総合児童センターわびあ

・令和6年2月20日(火) …三重県総合博物館こども体験展示室

1) ヒアリング調査 結果

①屋内遊具のある施設

【三重県総合博物館こども体験展示室】



こども体験展示室



三重県総合博物館 外観

(施設概要)

三重県に位置する文化・歴史に焦点を当てた博物館。展示室とは別に、小学生以下のこどもたちをメインターゲットとした「こども体験展示室」がある。「こども体験展示室」は、小さなこどもたちでも博物館を身近に感じ、楽しみながら学べる展示室になっており、展示の中を探検しながら自分の興味があるものを発見し、それについて調べたり、関連するものを見つけたりすることができる。

○ヒアリング結果

(屋内遊具の工夫点)

- ・基本的には展示室という位置づけになるので、激しく遊ぶような空間ではないが立体的な遊具になっている箇所については、こどもたちが乗り越えられない高さとしたり、滑りやすいところに関してはざらざらした素材を採用している。

(安全に関する取り組み)

- ・遊んでいるこどもたちにトラブルがあれば監視スタッフから別室に連絡が入るようにしている。
- ・乳幼児から小学校高学年のこどもたちがたくさんいるため、低年齢層の安全に配慮し、危険が予想されるはしごは撤去した。

(靴の運用について)

- ・二足制を取り入れている。靴箱あり。スリッパはなし。
- ・大人サイズの靴換算で、1段4足×5段が1セットで4セットあり80足分の靴箱がある。
- ・もともと靴を脱ぐ想定ではなかったため、後付けで設置したもの。

(運用の課題点)

- ・200㎡に100人ほど入室していた時は混雑によりスタッフの目が届かなかったことが課題。
- ・一度人数制限を設けると、その日のいつに解除するかが課題になる。仮に1組出たらすぐ1組が入れるのかどうかなどトラブルになる。

【和光市総合児童センターわびあ】



施設外観



わびあタワー

(施設概要)

埼玉県和光市広沢エリアにある、和光市広沢複合施設「わびあ」内にある児童施設。赤ちゃんのための「ベビースペース」、よちよち歩きから幼児のための「キッズスペース」、小・中・高校生のための「ティーンズスペース」、小さい子どもから高校生まで、年齢別に無料で利用できる施設を備える。中でもキッズスペースだいちにはは2Fまで突き抜ける大型複合遊具「わびあタワー」がある。

○ヒアリング結果

(屋内遊具の工夫点)

- ・禁止調の言い方のサインを設置していない
- ・フロアに置いている遊具は固定式のものではなく、可変できるようにしている。
- ・1Fは身体を動かして遊ぶ物、2Fは座って遊ぶ物を集めているので、似たような年齢層が集まること
によって自然と1Fが「動」2Fが「静」のエリアとなっている
- ・施設として地域との繋がりを意識している。

(安全に関する取り組み)

- ・過失がある事故は現状起こっていない。
- ・混雑時は3色に色分けした手首バンドを入館時に配り、60分の利用時間制限を設けたり、アリーナ(遊戯室)は曜日、時間帯ごとに時間割を組み、混雑緩和を図っている。

(靴の運用について)

- ・二足制を採用。靴箱はあり。スリッパはなし。
- ・靴箱は入ってすぐの一角に大きく設けている。
- ・裸足や靴下履きの利用による、においに関する問題は特に指摘されていない。

(運用上の工夫等について)

- ・清掃はスタッフ自身で行っているが、特に苦情などはない。
- ・施設にカーペット素材はなく、フローリングで構成されているため、メンテナンスの負荷が低い。
マットに関してもジョイントマットとしており、分割清掃、レイアウトの変更等を容易にしている。
- ・「水色のマットの上だけで水を飲む」など言葉だけでなく、色を用いてルールを設定している。

②水槽の設置に参考になる施設

【道の駅 硯上の里 おがつ】



水槽展示



水槽展示

(施設概要)

「道の駅 硯上の里おがつ」は、豊かな海を見渡せる雄勝地区中心部の高台に、観光・商業の拠点として2021年4月にオープンした施設。施設内には観賞用の水槽が2台ある。

○ヒアリング結果

(水槽展示について)

- ・販売用活魚を飼育する水槽が2台、観賞用の水槽が2台。
- ・展示用水槽では近海の海水魚(メバル・カニ・ウニ)を飼育している。
- ・飼育の専門スタッフはいない。

(飼育水の管理)

- ・漁港よりスカイトankとポンプを使って海水をくみ上げ、トラックにて運搬している。
- ・海水のくみ上げが重労働で人手が必要になるのが課題。
- ・排水は排水口から下水道に流している。今のところ問題はない。海に近い施設のため、もともと配管が塩分に強いかもしれない。

(生物の入手・飼育)

- ・地元の漁師が善意で持ってきてくださる。
- ・弱ったりして交換される魚に関しては自分たちで処理している。
- ・市販のエサを使うとコストがかかるため、同テナントの飲食店から廃棄する魚の切れ端をもらっている。

(委託業者とのかかわり方)

- ・年1回行う循環システムの点検を、水槽メンテナンス業者に業務委託している。
- ・水替えや日常的な清掃はスタッフで行っている。

【道の駅 大谷海岸】



販売スペースの様子



水槽展示

(施設概要)

漁港で水揚げされる新鮮な地魚・魚介類や気仙沼や三陸の産物を活かした宮城の「いいもの」を味わえる道の駅。1500mm×1200mm程度の大型水槽2台が展示されている。

○ヒアリング結果

(水槽展示について)

- ・エイ、イナゴ、アナゴなどの活魚を飼育している。水槽展示の構成は決まっていない。
- ・水槽を活用したイベント(タッチプール)などの実施例はない。
- ・飼育の専門スタッフはいない

(飼育水の管理)

- ・人工海水で飼育している。比重1.020-1.024の間に希釈して保っている。
- ・震災以前は海水くみ上げ・浄化循環設備があったが、設備・ランニングコストの面から人工海水での設置となった。
- ・季節によって海水温の調整が必要。
- ・排水は排水口よりグリーストラップを経由し750人用浄化槽にて処理している。

(生物の入手・飼育)

- ・漁師の善意で手に入れており、仕入れなどは特に行っていない。
- ・鮮魚には寄生虫などの付着があることもあり、魚の様子をよく観察するなど注意が必要。
- ・イナダなどに寄生するハダムシなどは真水での駆除をしなければならない。
- ・エサはイサダ(オキアミの一種)や切り身加工する際の内臓などを与えている。頻度は週に2回ほど。

(委託業者とのかかわり方)

- ・業務委託業者には、水槽周辺機器・ろ過槽の清掃と点検、飼育水の交換等を依頼している。
- ・日常的な清掃や水槽の水位確認、濃度チェックはスタッフにて対応している。

③年齢層の住み分けの参考になる施設

【保内児童センターだんだん】



施設内の様子



段差と色でエリア分けがされている

(施設概要)

宮内地区・川之石地区・喜須来地区の3保育所を統合した「保内保育所」と、0歳から18歳までの子どもたちが集える「保内児童センター」で構成されている。

異年齢の子どもたちが集まる施設内に、年齢に応じた活動・生活ができるスペース、様々な年齢の子どもたちが自然と交流できるようなスペースがつながっており、子どもたちが見守られながらのびのび成長できる場となっている。

○ヒアリング結果

(年齢の住み分けにおける工夫点)

- ・施設の真ん中に透明の素材で事務所を設置しているため、子どもたちの様子が見守りやすい構成になっている。
- ・小上がりスペースを設けており、そこでは0-18歳の子どもたちがうまく共存している。そこでは昼寝をしたり、座ったり寝転んで本を読んだりと様々な交流が行われている。
- ・小上がり部分に関してはチャイルドスケールで設計しており、パーティションの役割にもなっている。
- ・乳幼児の部屋、小学生の部屋と完全に分ける方式も取っている。
- ・保育所とその他の施設の門は分けている。

(靴の運用について)

- ・靴箱の収容数は大人50足、子ども50足の計100足。
- ・靴箱の容量がいっぱいになった際、来館者は近隣の別施設で待っていることがある。
- ・施設内は基本的に裸足で、体育館は上履きとしている。

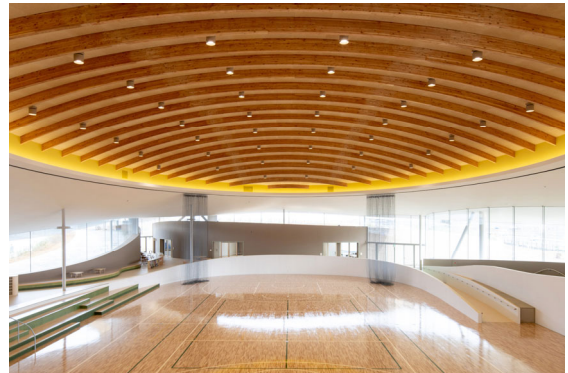
(課題点)

- ・部屋の大きさとゾーニングを表現するなど、子どもたちにも年齢層の住み分けがよく伝わるように設計したほうがいい。

【山形市南部児童遊戯施設コパル】



大型遊戯場



体育館

(施設概要)

障がいの有無や国籍、家庭環境の違いに関わらず、すべての子どもたちに開かれた遊び場として作られた施設。性別や年齢、人種・国籍の違い、障がいの有無など、異なる背景や特性を持つ子どもたちがともに遊べる「インクルーシブ」な遊び場を目指している。共用部と一体型の体育館と遊技場ではあらゆる子どもたちが思い思いに遊べる空間になっている。

○ヒアリング結果

(年齢層の住み分けをせず、共存することによるメリット)

- ・年齢層の住み分けをせず共存することで生まれるメリットは、個々の興味やできること・できないことを自分で選択して遊ぶことができる点。
- ・年齢で遊具を分けた場合、障がいのある子どもがあきらめなくてはいけないときがある。
- ・様々な年齢制限や遊びのルールを設けた場合、字の読めない子どもや国籍の異なる子どもがスムーズに遊べないときがある。コパルに来た人が「誰にとっても楽しめる場所」(遊びをあきらめることがないよう)となるように年齢の住み分けをなくしている。
- ・きょうだいがいる家庭が多い山形では、年齢分けがない方が子育てしやすい環境になる。
- ・乳児のみの家族が、専用スペースがないことに不安を感じることもあるため、土日混雑時のみの「赤ちゃんのへや」を準備することがある。

(靴の運用について)

- ・二足制を採用している。スリッパはなし。
- ・館内は最大400名が入館できるため、大人と子ども合わせて400足が収納できる大きさの靴箱がある。

(その他)

- ・「アテンダント」という有償(交通費のみ)ボランティア制度がある。
- ・ボランティアは、館内清掃・除菌、読み聞かせ、イベント時の補助、来館者との交流など、各々が力を入れたいところ・経験などを活かし活動している。

2) 現地視察調査 結果

令和6年2月19日(月)、20日(火)の2日間にわたり、上記類似施設の中から「和光市総合児童センターわびあ」「三重県総合博物館こども体験展示室」の現地視察とヒアリングを行った。

(i) 令和6年2月19日(月)

【視察先】

和光市総合児童センターわびあ

【参加者】

敦賀市	児童文化センター	次長補佐	梅野 博文
敦賀市	建設部住宅政策課	課長補佐	小保 直己
(株)トータルメディア開発研究所			林野 雄一郎
(株)トータルメディア開発研究所			藪田 雄三

【視察先担当者】

株式会社 ティップネス

和光市総合児童センター・和光市民プール 施設長

兼 一般社団法人和光市広沢エリアマネジメント ファシリテーター 兼 広報担当

大野 俊也 氏

【ヒアリング結果】

(安全に関する取組)

- ・タワーについては1年点検を行っている。
- ・コースを設定し遊び方にレベル分けを行っている。
- ・タワーの中で遊んでいる様子が見えるように透明の窓を設けている。
- ・「保護者はお子さまを常に見守ると共に、挑戦できるか判断をお願いします」という文言をあらかじめサインとして用意している。
- ・2Fの安全柵をよじ登ったり、柵の間から物が落ちたりする可能性があるため、透明のシートを巻き付け、そこに展示を行うことで、同時に安全性を確保した。
- ・エレベーターが到着したときの飛び出しを防ぐために柵を設けている。
- ・貸し出しボールの種類を年齢層に応じてコントロールしている。
- ・タワーの安全対策用に監視カメラを設置している。
- ・ベビースペースは計画当初から設置を予定していた。
- ・有事の際は下記のようなフローを設けている。

遊具の使用中止→けが人の処置、製作者・行政を交えて原因を追究→判明後改善→再開。

(靴の運用について)

- ・靴箱に関しては蓋つきが272台、蓋無しを含めると300足分はある。
- ・床面に「ここでくつをぬぎましょう」という日英文字とピクトサインがある。
- ・こども椅子が一つあり、座って脱ぎ履きできる。
- ・すべり防止のために靴下は脱いで遊んでもらうようにしている。遊戯室に関しては靴を履いている人といない人が混在していると危険なので、原則上履きなしにしている。

(清掃について)

- ・清掃、メンテナンスは基本的に毎日行っている。
- ・館内でリスト化を行い、毎日行う所と、週に1回行う所を区分けしている。
- ・清掃業者が週に1回清掃を行っている。
- ・片付けする時間のクリーンタイムを作りたいと思っている。

(運営)

- ・入場制限について、基本的には60分交代としているが、今は空間の見目で判断している。運用しながら社員とリーダーで入場制限の解除を決定している。
- ・入場時間に応じて色分けしたバンドを渡すことで入場時間を管理している。
- ・スタッフは1Fには1名、2Fには2名が常駐している

(その他)

- ・わびあタワーは関東最大級である。
- ・土日の利用者は平日より多い。
- ・遊具の想定外の使い方は、運営を開始してからでないと分からないことが多い。
- ・ベビーカー置き場があふれるときは外に置かせていただいている。
- ・広報は(HP、掲示板、アナウンス、広報誌、SNS(X、Instagram)、ブラックボード、メール配信)を行っている。
- ・図書館には6000冊の本が収納されている。
- ・出入口を一つにすると防犯上は良いが、土日や繁忙期には混雑する面もある。運営に関わる人が設計段階から関わっていればよかったなと思う。
- ・中心のターゲット層はあくまで児童館という位置づけなので、「0歳から18歳」ではあるが、実際に利用が多いのは幼児層と小学校低学年層。
- ・練馬区からの来場者もいる。

(ii) 令和6年2月20日(火)

【視察先】

三重県総合博物館こども体験展示室

【参加者】

敦賀市	児童文化センター	次長補佐	梅野 博文
敦賀市	建設部住宅政策課	課長補佐	小保 直己
	(株)トータルメディア開発研究所		林野 雄一郎
	(株)トータルメディア開発研究所		藪田 雄三

【視察先担当者】

三重県総合博物館(MieMu)	中村 千恵 氏
-----------------	---------

【ヒアリング結果】

(屋内遊具の工夫点)

- ・こどもたちに「博物館の入り口」として使っていただき、常設展につないでいただく目的の施設。
- ・靴を脱がせるというワンクッションで、こどもたちがいきなり突入してくることは避けられる点はよい。
- ・博物館内でこどもたちが発見したみんなに伝えたいことを、テンプレート用紙を使って貼りだす場所を作っている。
- ・伊勢と津をメインにした展示を展開し、三重県総合博物館らしい展示を展開している。
- ・グラフィック内の文章・解説にはルビを振り、漢字が読めないこどもたちにも情報を伝えられるようにしている。
- ・立体遊具内は角をアールにする、こどものサイズに合わせたトンネルを用意するなど、チャイルドスケールを意識した設計になっている。
- ・色、音声、ハンズオン展示など、こどもたちが自分の興味に合わせて様々な形で展示を楽しめる空間になっている。
- ・混雑時でも乳幼児が安心して遊べるように、一角には柵とクッションが一体になった什器で仕切られた空間を設けている。

(安全に関する取組)

- ・監視カメラを2台設置している。

(靴の運用について)

- ・横長の1列5段の靴箱を4つ並べており、100足ほど収納できる。
- ・こどもサイズの椅子を設置し、小さなこどもでも地べたに座らず靴の脱ぎ履きができる。
- ・上履きゾーンには見切りを入れて素材を切り替えることで、ゾーニングを行っている。

(清掃について)

- ・掃除機にて清掃を行っている。
- ・車椅子で来られる方には車輪を拭いて入場いただく。

(運営)

- ・スタッフについては常に一人が常駐しており、巡回を行っている。
- ・基本的に保護者の同伴がなければ入れないようにしている。
- ・メインターゲットは小学校3年生だが、来館が多いのは低学年と幼児が多い。
- ・入場に関しては完全入れ替え制で行っている。

(その他)

- ・靴箱を後付けしたため、出入りの人の流れがうまくさばける動線計画となっておらず、入口がどうしても混雑する。
- ・10台くらいのベビーカーを前に止めることができるが、それを超えると飽和する。
- ・展示室入り口のドアがかなり重たい。

(2) 調査結果と課題

①屋内遊具のある施設

(屋内遊具の工夫点)

- ・三重県総合博物館こども体験展示室では、展示の文章に全てルビが振られており、小学校低学年のこどもたちでも内容が理解できるようになっていた。
- ・わびあでは立体遊具の中で遊んでいるこどもたちを見守りやすいように、一部を透明化するなど、安全面に配慮していた。

(本施設の参考となりそうな点)

- ・2施設とも二足制を採用しており、屋内遊具エリアではスリッパではなく、靴下もしくは裸足の運用としていた。
 - ・関係者ワークショップで靴下での運用の際、夏場のべたつきやにおいを懸念する声があったが、わびあでは、においによる苦情はないとの回答があった。
- 大型遊具利用時の安全性を考慮すると、体育館や陶芸室など特別な場所以外は靴下・裸足の運用が良いのではないかと。

②水槽の設置に参考になる施設

(他施設の水槽の管理運営方法について)

- ・道の駅大谷海岸は人工海水、道の駅硯上の里おがつは近隣の海から取水を行っており、スタッフの負担が大きい。
- ・2施設とも漁師の協力で飼育生物を入手しており、善意に頼っているため、魚の供給は不安定で魚種の入替えも不定期となっている。
- ・日常的な清掃などはスタッフにて対応している。おがつは機器メンテナンスのみを業務委託としているが、大谷海岸は飼育水の交換も含めて業務委託としている。

(本施設における課題)

- ・本施設の場合、海から海水を取水する設備は課題が多く、整備が難しいため、おがつのように人工海水での運用を含め検討する必要がある。
- ・日常的な清掃や海水の入れ替え、魚種の入替えなど運営における課題が多いため、安定的・継続的な運営の観点から、機器メンテナンス、清掃、人工海水の製造・濃度点検等を業務委託する方法も含め検討する必要がある。
- ・2施設における漁師のように、生物入手や飼育面で相談できる外部協力者又は業務委託先の確保を検討する必要がある。

③年齢層の住み分けの参考になる施設**(年齢層の住み分けにおける工夫点)**

- ・保内児童センターだんだんでは小上がりスペースやチャイルドスケールを取り入れた設計で明確な仕切りを設けずに、異年齢を共存させていた。
- ・山形市南部児童遊戯施設コバルではインクルーシブの考え方のもと、施設全体を大きなひとつながりの空間とし、仕切りなどで年齢層の住み分けをあえて行っていない。しかし土日・混雑時は保護者が安心して過ごせるよう乳幼児専用の部屋を設定するなど、運営面で安全性の確保を達成している。

(本施設の参考となりそうな点)

- ・遊具によって対象年齢を設けたり、部屋によって明確な年齢層の住み分けを行わないことによって、異年齢のこどもの交流だけでなく、身体や国籍の違いを問わずだれでも楽しめるインクルーシブな空間が達成できる。本施設でも、遊具やエリアで明確な対象年齢を設けないことは良い効果を生むと考える。
- ・一方、2施設とも乳幼児とその保護者が安心して過ごせるように、乳幼児専用のスペースや部屋を設定していた。混雑時などは乳幼児が安心して過ごせる空間の設定が必要と考える。

第4章 屋内計画

第2章、第3章での検討結果をもとに、本施設のリニューアル計画を以下のように策定した。

1. 基本計画コンセプト

○エントランス

つるがの自然を「みつける」

6mの吹き抜けを活かしながら、敦賀の身近な自然をモチーフにした屋内遊具を計画し、子どもたちがお気に入りの場所を見つけ、遊べる、こどもたちにとって居心地のよいシンボルエントランスを計画する。

○つるがネイチャールーム(仮称)(旧アトムASOBOランド)

つるがの自然を「あそんでまなぶ」

敦賀の海、山、川をテーマに身体を動かしながら、自然や文化の魅力に出会える立体遊具に加え、水槽を設置し、ここだけにしかない遊戯空間を計画する。

2. テーマ及び屋内計画

(1) 屋内計画の展開方針

展開方針の策定に当たって「第3章課題の整理」をもとに屋内計画の展開方針を検討した。

○動線

- ・室内エリアと外靴エリアの区分を明確化
 - 利用者が簡単に室内エリアと外靴エリアを判断できる動線計画を検討する。
(詳細は(3)屋内動線の検討にて記載。)
- ・団体来館・混雑時の入館手順の設定
 - 団体や大人数での来館には入館ルートの変更、プラネタリウム前靴箱の活用など入館手順を設定し、エントランスや館内での局所的混雑を回避する。

○遊具

- ・危険箇所を事前に十分に検討したうえでの遊具の計画
 - 事前に十分な検討をしたうえで、屋内で体を思い切り動かせる遊具を計画する。運営開始後の予期せぬ使用方法による事故のリスクや、禁止事項サインの後付けを防ぐ。
- ・けがのリスクを考慮した安全性の高い素材の選定
 - 遊具の段差部分などに鋭角な部分が残らないよう設計する。また頭や腕が当たる部分に関してはカーペットなどの柔らかい素材を選定する。
- ・保護者・スタッフの目が届きやすい空間設計
 - 保護者・スタッフが見守りやすいよう、死角が少なく、目の届きやすい遊具計画とする。

○年齢の住み分け

- ・同エリア内で異年齢の子どもたちが安全に遊べるゾーニング形成
 - 山側ゾーンは元気いっぱい体を動かす空間、海側ゾーンはゆったり過ごせる空間とすることで同エリア内で異なる雰囲気の設定する。
 - 柵を設けずに遊具の配置や床の色を変えることで、利用者が感覚的にゾーニングを理解できる設計とする。

○水槽展示

- ・現状の組織体制で持続可能な規模・仕様の水槽計画
 - 特に追加スタッフなどを要せず、施設運営に大きな負担とならない規模の水槽を検討する。
- ・敦賀湾もしくは敦賀市内の河川に生息する魚が飼育可能な仕様の水槽機器を計画
 - 敦賀の魚が飼育できる水温や環境を再現できる水槽を計画する。
- ・水槽の魚をじっくり観察できる展示の工夫
 - 水槽の周りで長く滞在でき、来館者がじっくり生物を観察することができる展示計画とする。

○デジタルコンテンツ

- ・デジタルコンテンツの更新性
 - 壁面に映し出す映像の背景を季節ごとに変更できたり、子どもたちが作る塗り絵の種類も複数用意したりすることで、何度来館しても楽しい体験ができるデジタルコンテンツを計画する。
- ・情報表示をデジタル化
 - プラネタリウムの番組案内やイベント情報等、更新頻度が高い掲示物はデジタルサイネージに掲示する。
 - リニューアル後のゾーニングに従い、情報が得やすい最適な場所にサイネージを設置する。
- ・衝突や故意の破損による故障を防ぐ什器
 - 子どもたちが塗り絵をスキャンするコンテンツ機器はケースで囲うことで、外部からの衝撃による故障を防ぐ。また子どもたちが PC 等の重要なシステム機器を触れない仕様とし、機器の故障を防ぐ。

○プラネタリウム前室

- ・プラネタリウム上映の期待感を高める前室の意匠リニューアル
 - エントランスとの空間的つながりを持たせつつも宇宙への興味をさらに高めるようなデザインへと変更する。

○その他

サイン計画

- ・「〇〇は禁止」などの命令調の強い表現ではなく、「〇〇に気を付けましょう」など、子どもの自立を促す表現のサインを検討する。

○什器計画

- 幅広い年代の子どもたちが長く愛着を持てるように、子どもたちが好きなように組み合わせる自由で遊べるテーブルなどの什器を計画する。

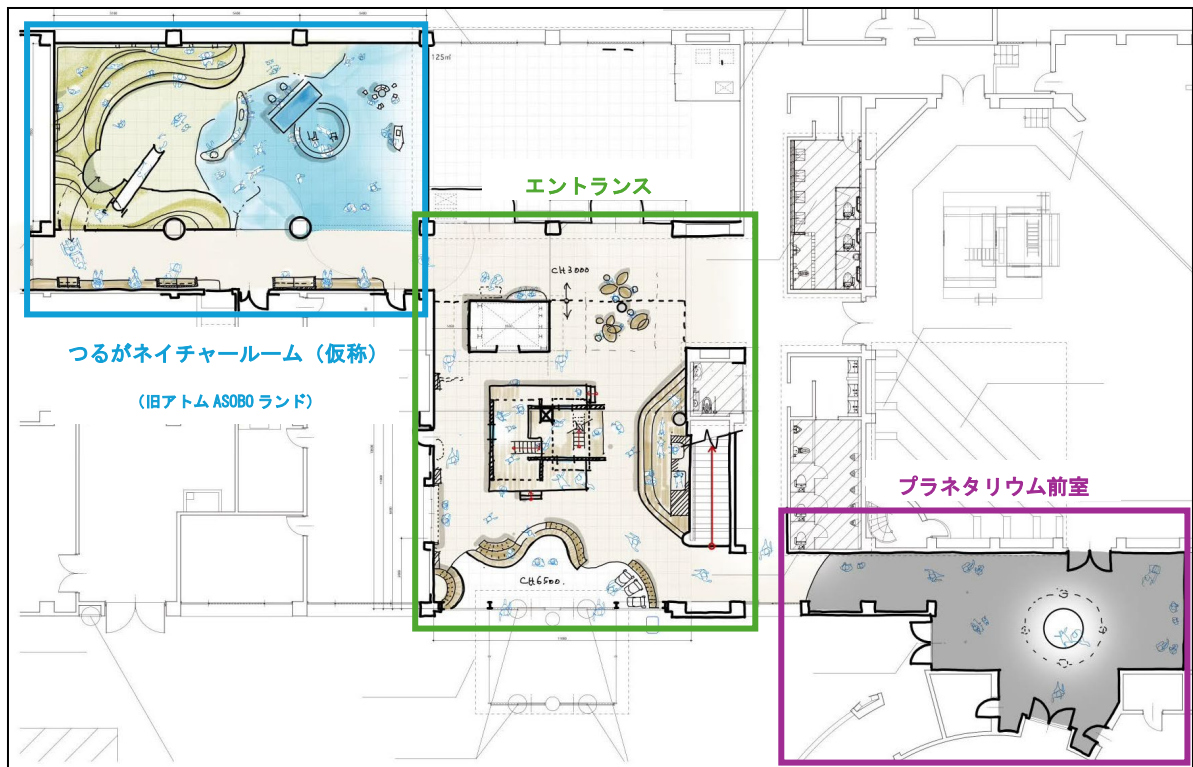
○バリアフリー

- 外靴エリアと室内エリアのフロアの段差がない設計
→段差がないフラットなフロア設計で車椅子やベビーカーの移動がしやすい環境とする。

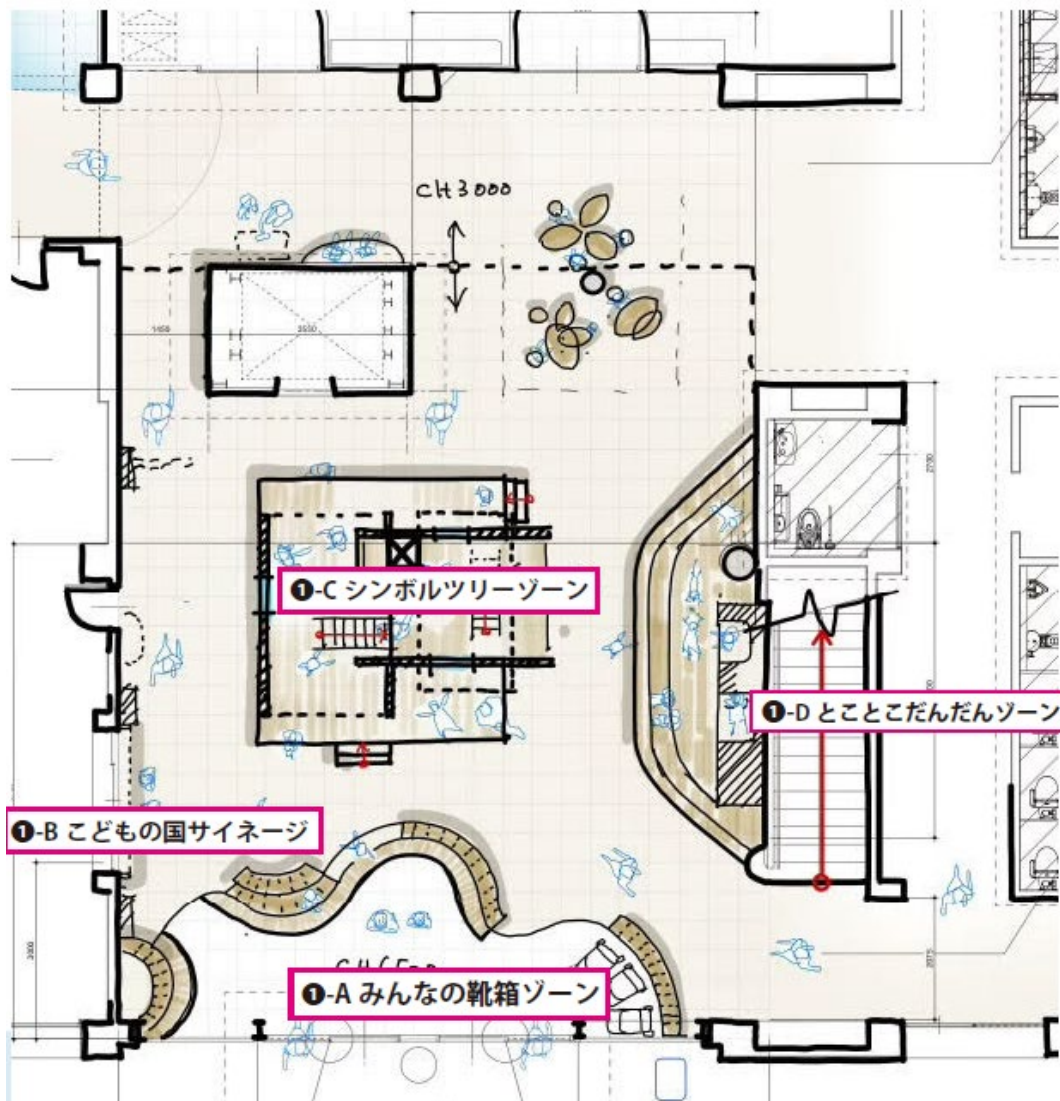
(2) 各ゾーニングと機能

展開方針をもとに、リニューアル後のゾーニングを検討した。なおゾーン名称は仮称である。

1階 リニューアル後 ゾーニング図



○エントランス

**①-A みんなの靴箱ゾーン**

靴を脱いだら館内での靴の脱ぎ履きが不要になる、館全体の靴箱として機能。

①-B こどもの国サインージ

館内で行われるイベント情報を映し出すことで、来館者に開催中のイベントを効果的に周知。

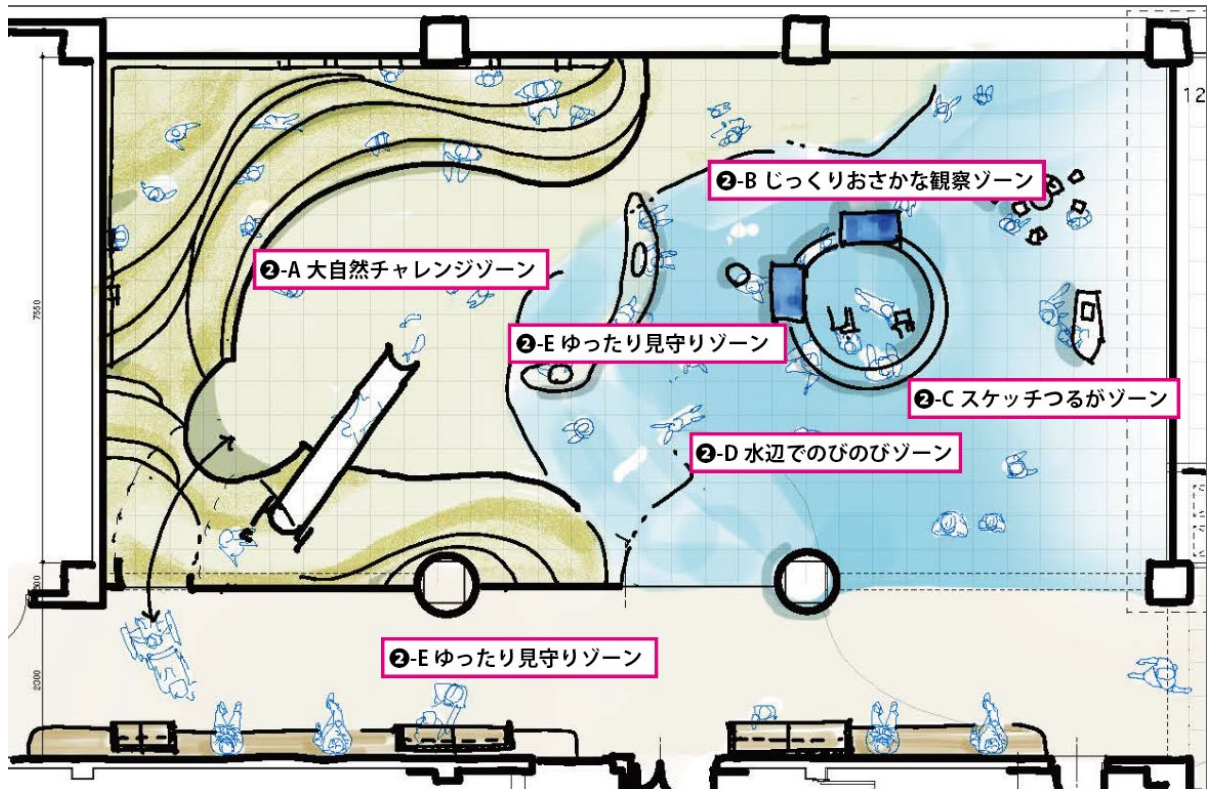
①-C シンボルツリーゾーン

ツリーには各テーマを持たせた空間を計画し、子どもたちが自分たちのお気に入りの部屋を見つけることができる仕掛けを展開。

①-D とことこだんだんゾーン

小上がりの空間ではゴロゴロしたり、ゆっくり本を読むことのできる、乳幼児と保護者のスペースを設置。

〇つるがネイチャールーム(仮称)(旧アトム ASOBO ランド)



②-A 大自然チャレンジゾーン

敦賀の山々をイメージした、段差のある遊具を設置し、全身で遊べる遊具を計画。

②-B じっくりおさかな観察ゾーン

敦賀湾に生息する魚種を中心とした水槽展示で敦賀の自然の豊かさを発信。

②-C スケッチつるがゾーン

自分で色を塗った生き物や乗り物などが壁面に投影されるデジタルコンテンツを展開。

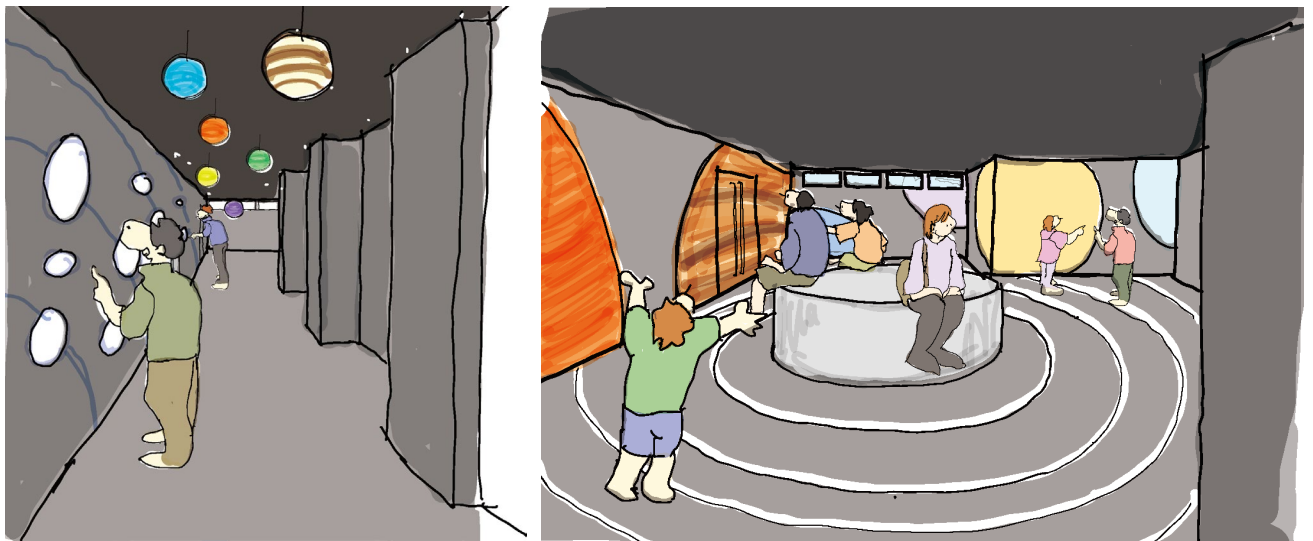
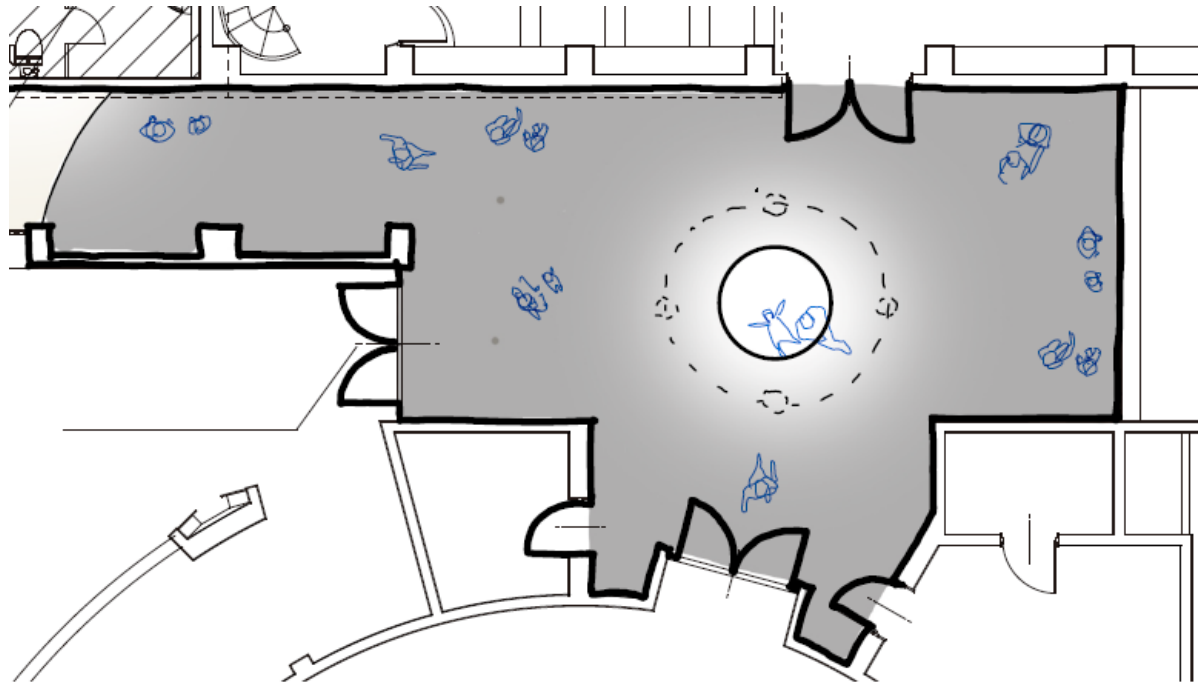
②-D:水辺でのびのびゾーン

アクティブに動く山側とは反対に海ゾーンはゆったり過ごせるエリアとして計画。

②-E:ゆったり見守りゾーン

保護者が安心して見守れるようにこどもたちがアクティブに遊ぶ山側に向けたベンチを設置。

○プラネタリウム前室

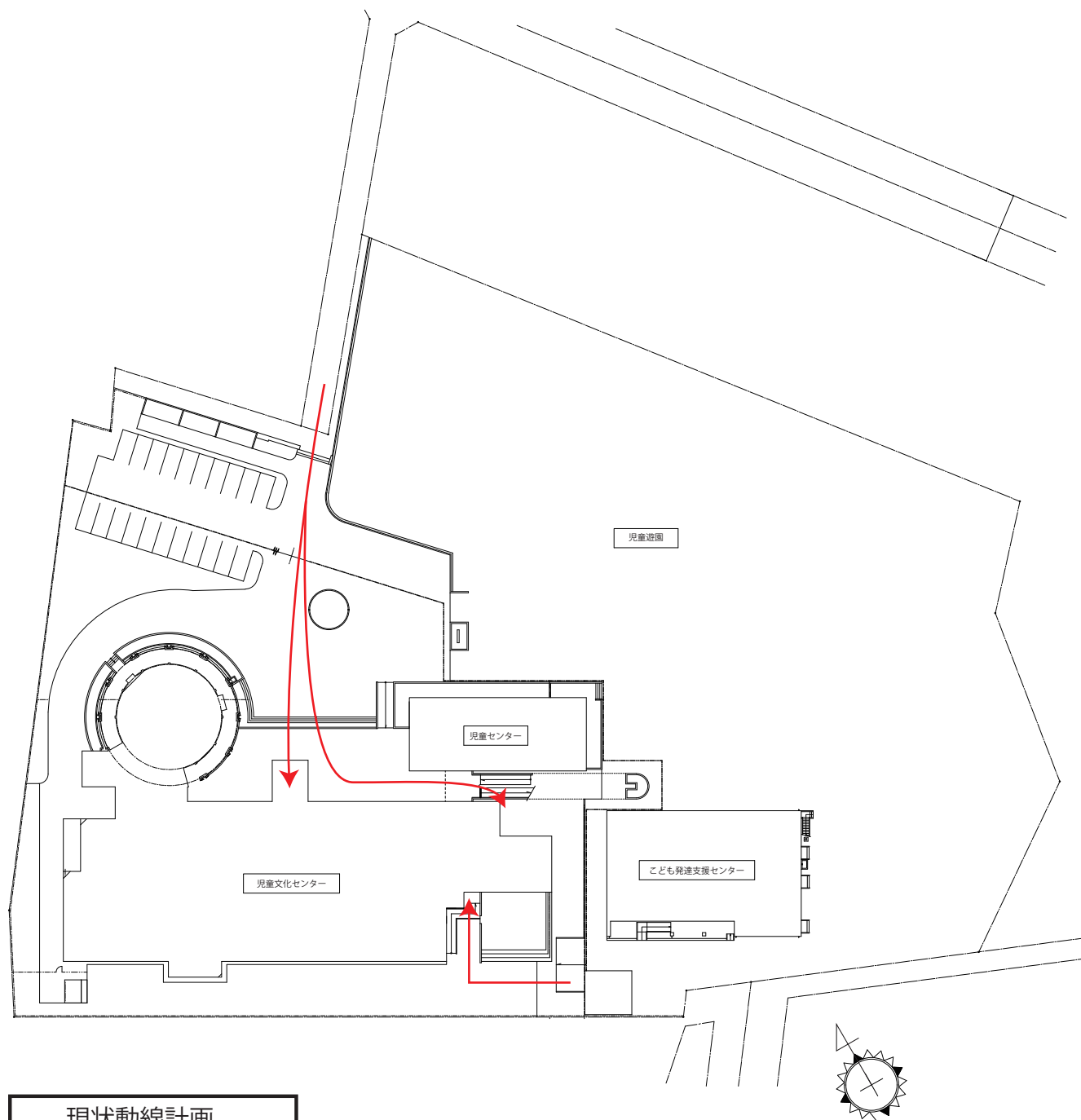


機能: プラネタリウムに続く通路として来場者の機運を高め、この後に続くプラネタリウムでの体験を充実させる空間

第4章 屋内計画

(3) 屋内動線の検討

室内の上履き化による児童文化センターへの動線の変化を下記に示す。



現状動線計画

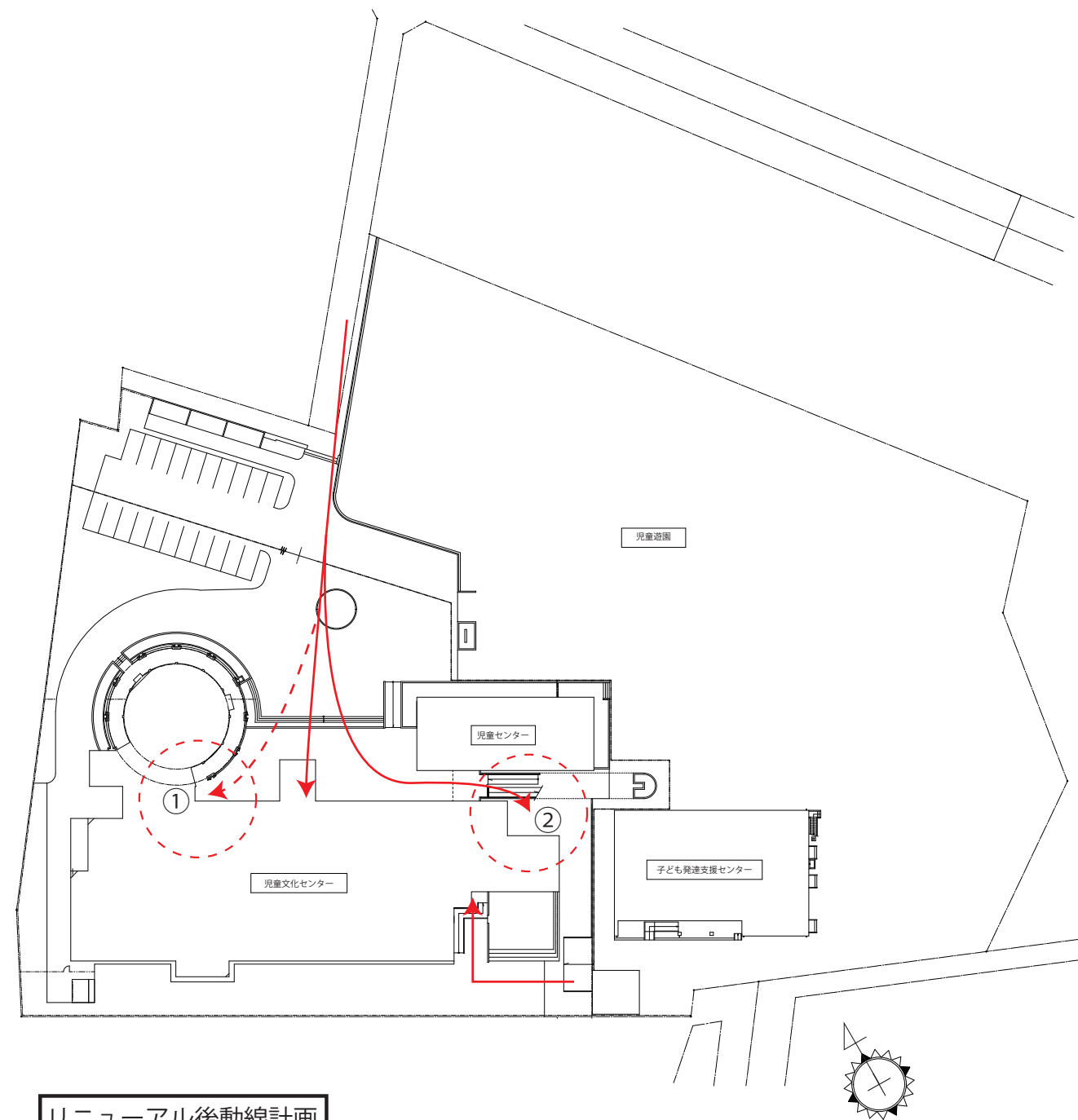
現状、児童文化センターへのアプローチは3か所で構成されている。

【リニューアルに向けた課題】

館内を基本室内エリアとした際、入館ルートが複数あるため、どこで靴を脱ぐのか、外靴エリアと室内エリアの住み分けをどのように設定するか。

【検討が必要と考えられる箇所】

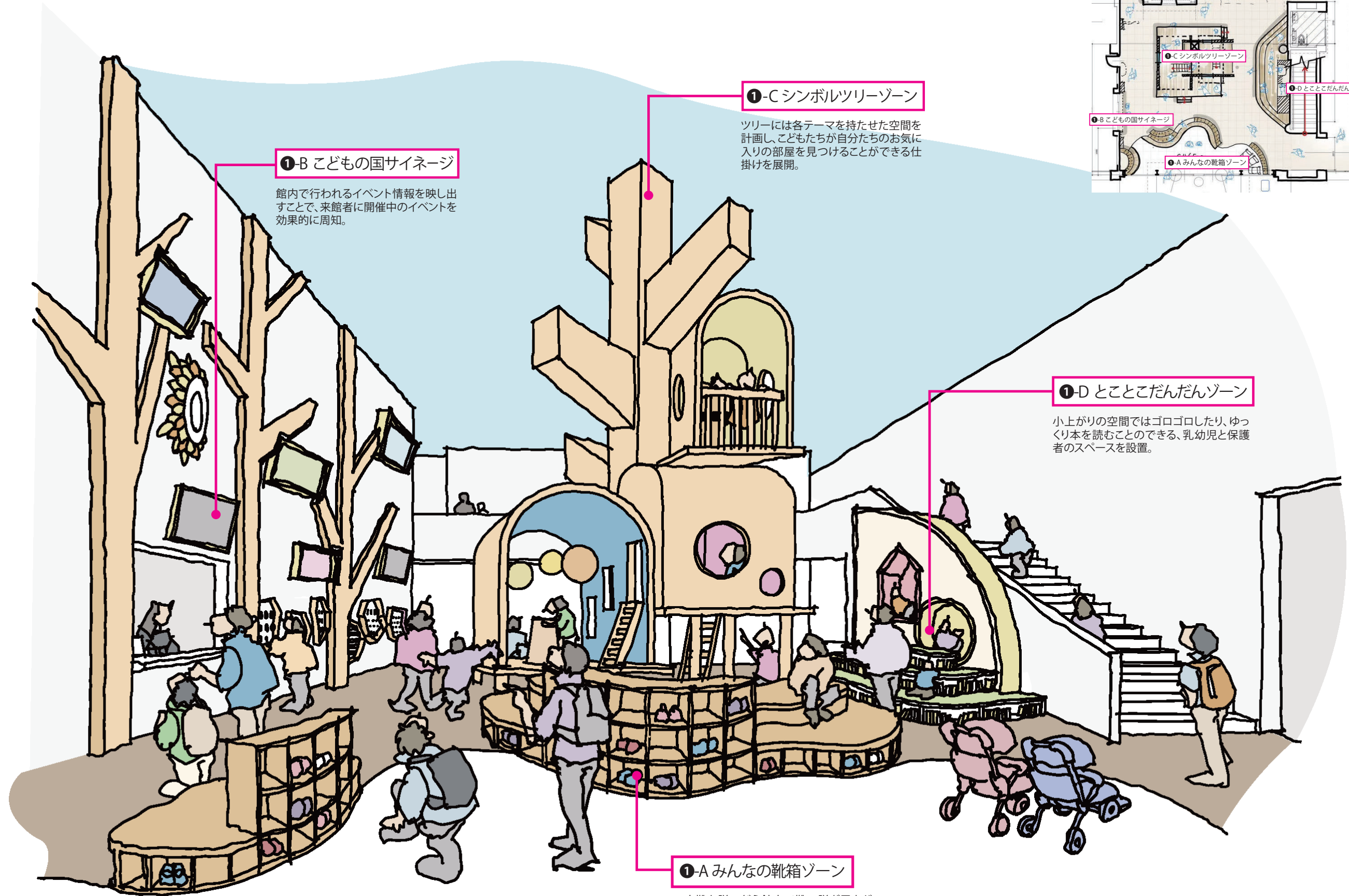
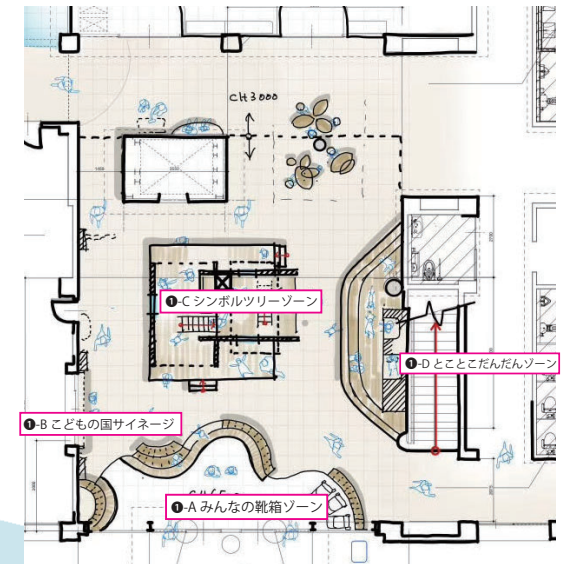
- | | |
|-------------|---------|
| 児童文化センター | 児童センター |
| -1F 陶芸室 | -1F 遊戯室 |
| -1F 陶芸室横トイレ | -1F 和室 |
| -1F ホール横トイレ | |
| -2F 工作室 | |
| -2F 工作室横トイレ | |



リニューアル後動線計画

- ・エントランスに館全体の靴箱を設置することに伴いメインのエントランスを一つとする。
- ・破線の①に関しては団体のスムーズな入館のためのルートの1つとして検討する(第5章3項(1)を参照)。
- ・破線の②に関しては児童遊園や児童センターで遊ぶ子どもたちのトイレへのアクセスを考慮し、室内に外靴ゾーンを一部設ける必要がある。

(4) 展示イメージパース
ア 1Fエントランス



①-B こどもの国サインエージ

館内で行われるイベント情報を映し出すことで、来館者に開催中のイベントを効果的に周知。

①-C シンボルツリーゾーン

ツリーには各テーマを持たせた空間を計画し、子どもたちが自分たちのお気に入りの部屋を見つけることができる仕掛けを展開。

①-D とことこだんだんゾーン

小上がりの空間ではゴロゴロしたり、ゆっくり本を読むことのできる、乳幼児と保護者のスペースを設置。

①-A みんなの靴箱ゾーン

一度靴を脱いだら館内で靴の脱ぎ履きが不要になる館全体の大きな靴箱として機能。

イ 1F つるがネイチャールーム(仮称) (旧アトムASOBOランド)

②-B じっくりおさかな観察ゾーン

敦賀湾に生息する魚種を中心とした水槽展示で、敦賀の自然の豊かさを発信。

②-A 大自然チャレンジゾーン

敦賀の山々をイメージした、段差のある遊具を設置し、全身で遊べる遊具を計画。

②-E ゆったり見守りゾーン

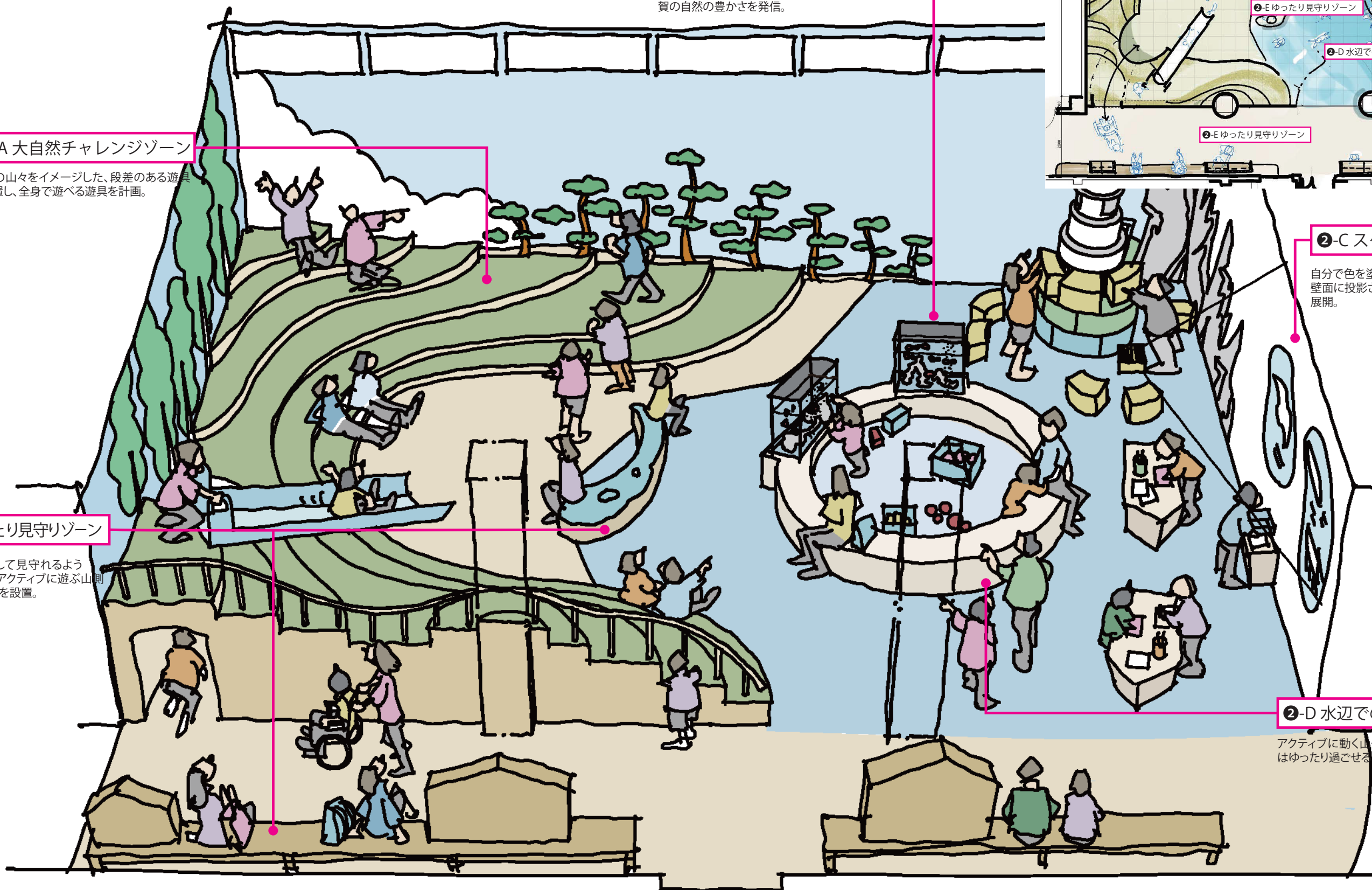
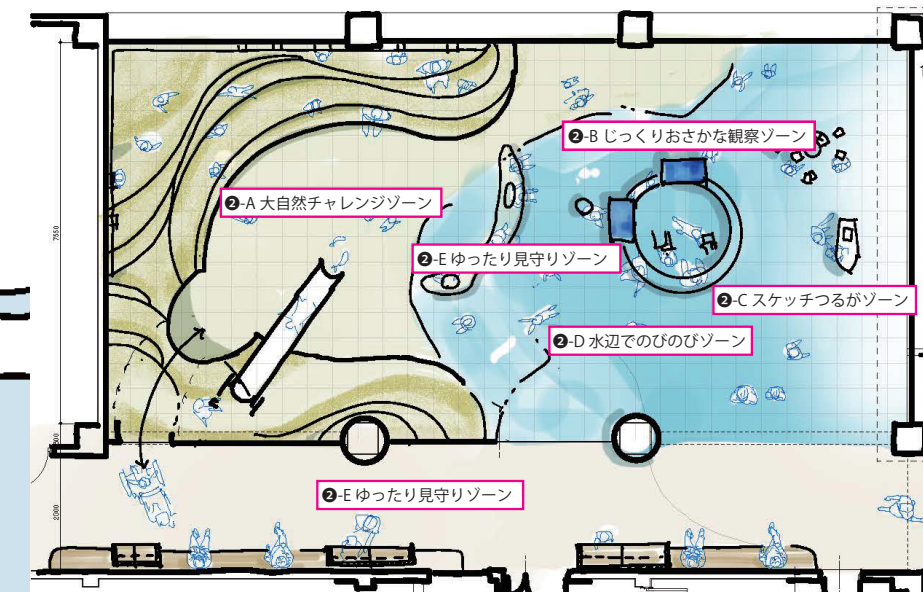
保護者が安心して見守れるように子どもたちがアクティブに遊ぶ山側に向けたベンチを設置。

②-C スケッチつるがゾーン

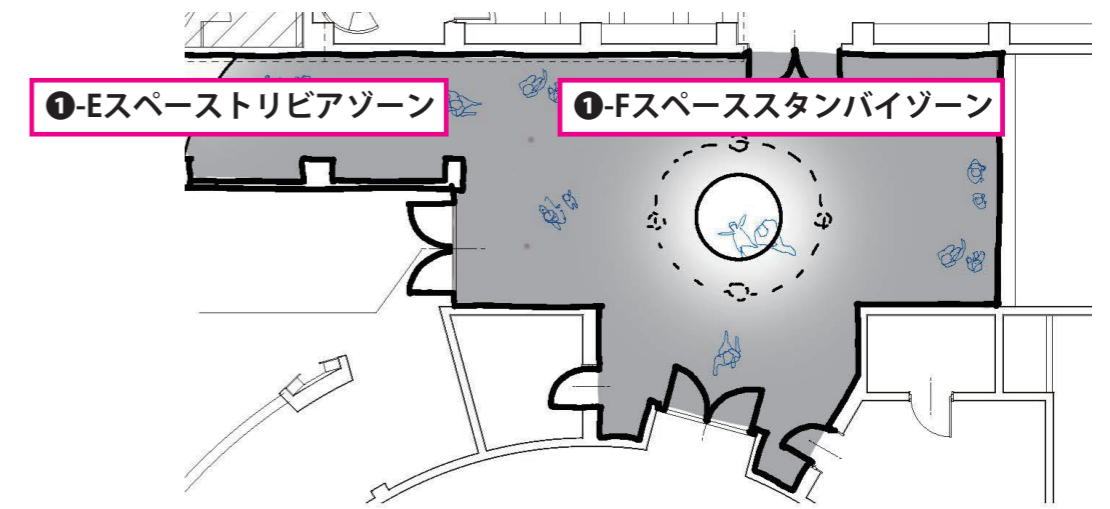
自分で色を塗った生き物や乗り物などが壁面に投影されるデジタルコンテンツを展開。

②-D 水辺でのびのびゾーン

アクティブに動く山側とは反対に海ゾーンはゆったり過ごせるエリアとして計画

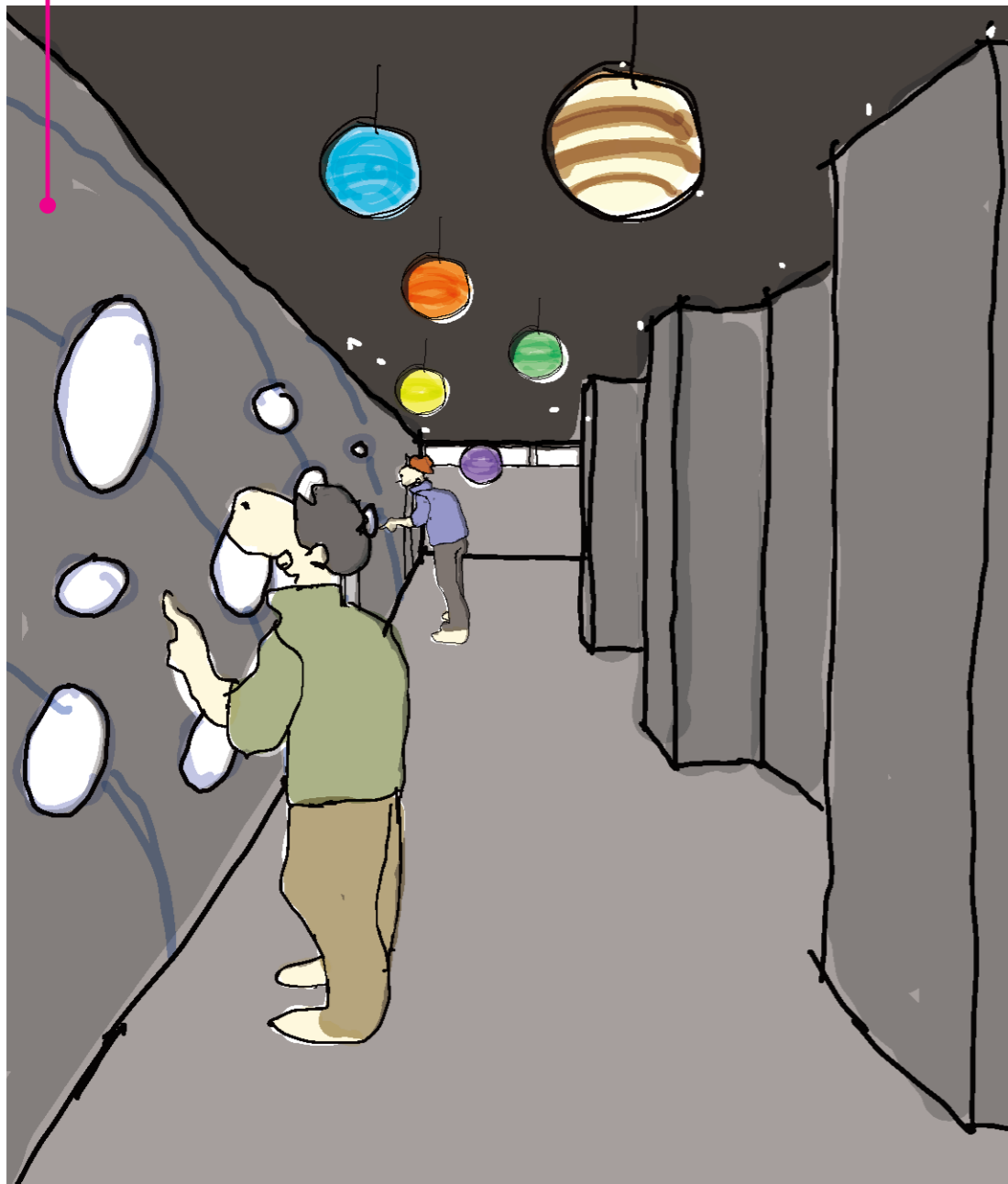


ウ 1F プラネタリウム前室



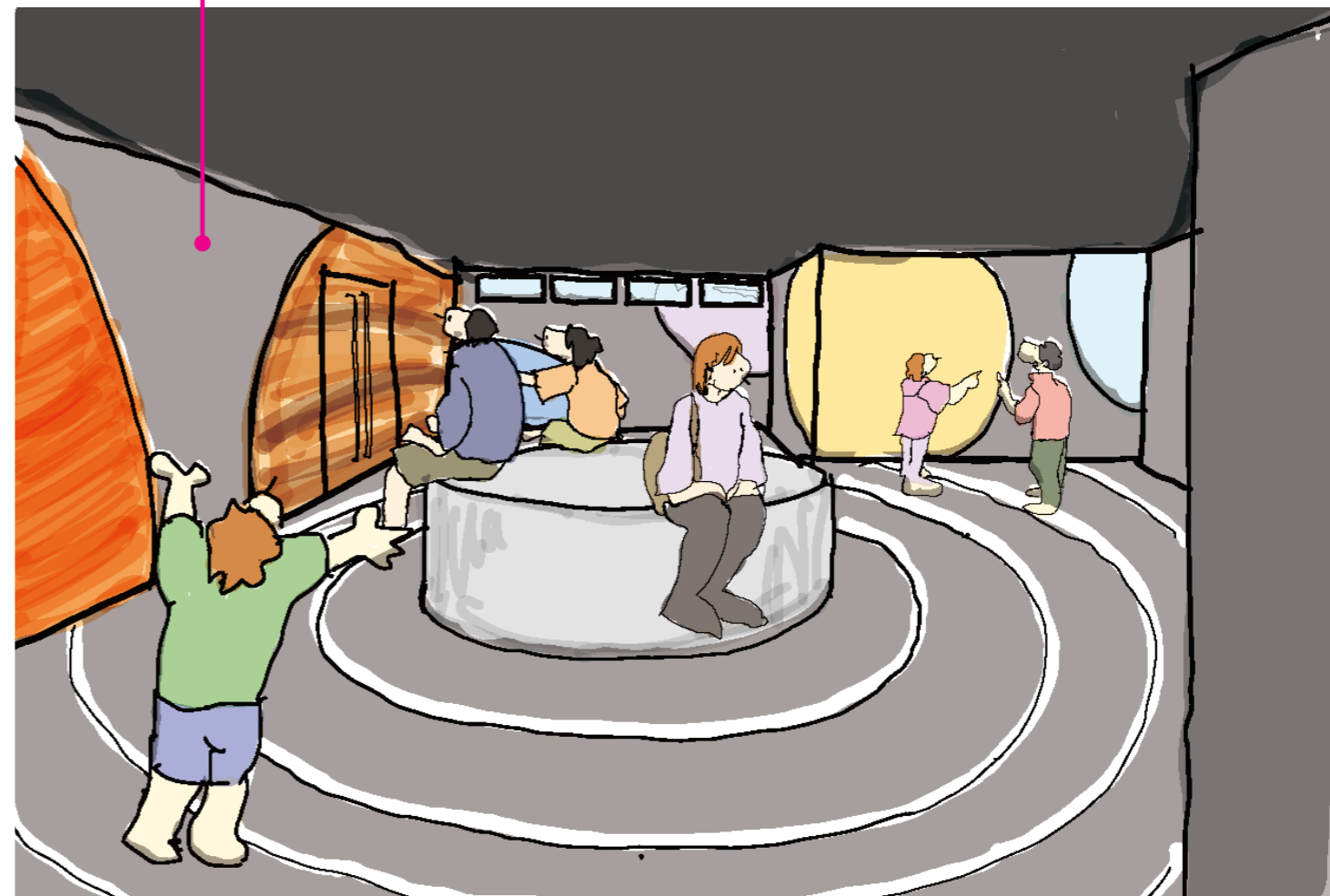
①-Eスペーストリビアゾーン

宇宙に関する豆知識やトリビア情報を展開



①-Fスペーススタンバイゾーン

グラフィックに囲まれたまるで宇宙のような空間で
プラネタリウムの上映が始まるまでの気持ちを高める空間

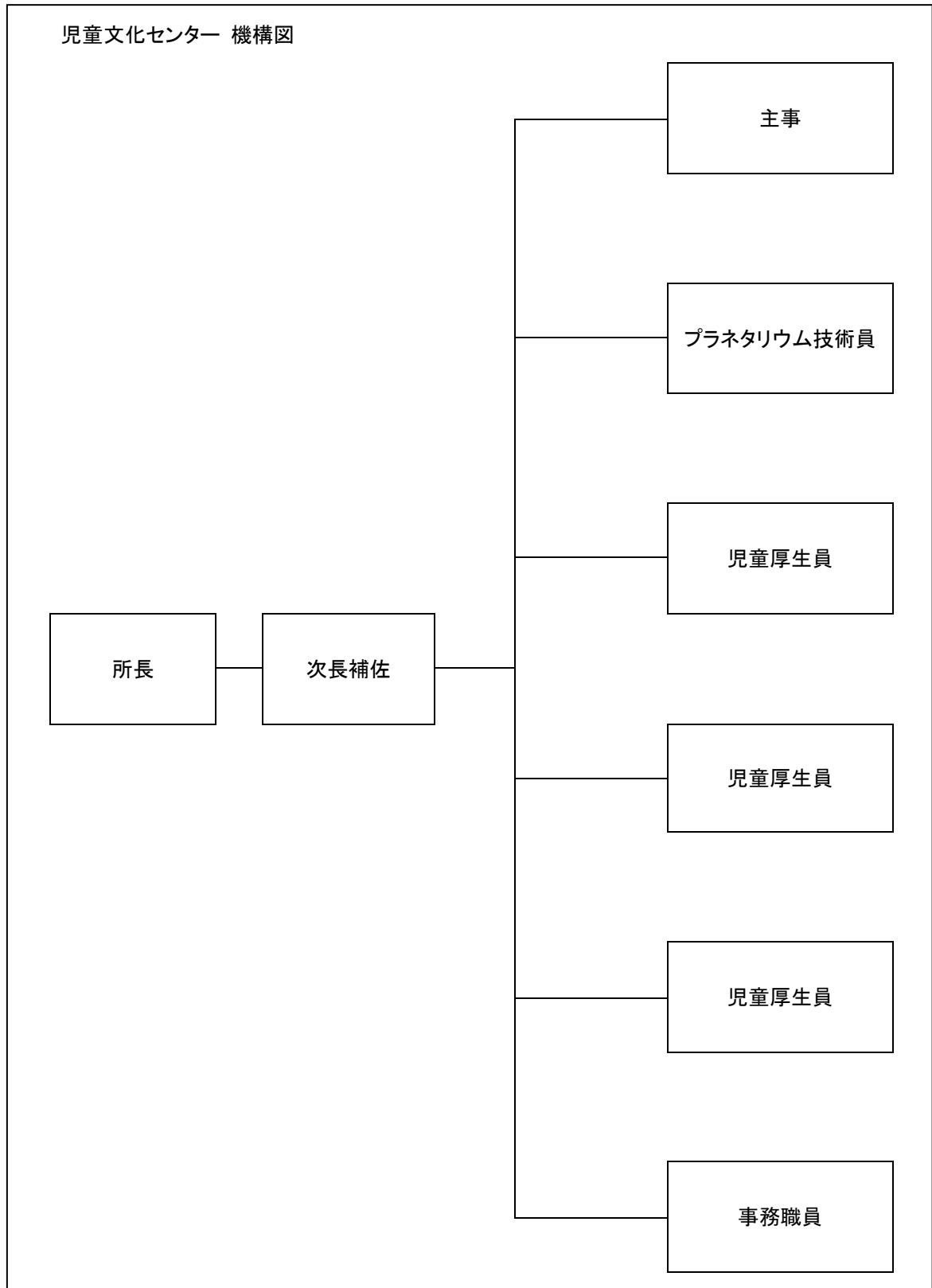


第5章 管理運営計画

1. 現状の管理運営組織

○現在の運営組織

現在の運営組織体制は以下の通りである。



○開館形態

■開館日時

- ・ [4月1日から10月31日] 午前9時から午後5時
- ・ [11月1日から翌年3月31日] 午前9時から午後4時30分
- ・ 休館日：毎週月曜日・休日の翌日・12月29日から翌年1月3日

■利用料金

- ・ 入館料は無料。
- ・ ワークショップなどの一部イベントやプラネタリウム上映では、参加費・使用料が設定されている。

2. リニューアル後の管理運営組織

○リニューアル後の運営組織

運営組織体制は現体制を前提に検討する。ただし水槽展示の追加により、飼育生物への給餌や水槽清掃など、職員にて日常的に対応が必要な業務が発生する。そのため施設運営の負担を減らし、かつ継続的な運営を目指すため、水槽水替え・機器メンテナンスは外部専門業者に業務委託することを前提に検討する。(検討詳細は後述「(3) 水槽展示生物の飼育」にて記載する。)

○開館形態

■開館日時

- ・ リニューアル後の開館時間の変更は実施しないが、近隣他施設は月曜休館のため、休館日の変更も含め利用者ニーズを考慮した休館日の検討は必要である。
- ・ 水槽のメンテナンスや大型遊具の安全点検に時間を要する場合、閑散期の平日をメンテナンス日として別途休館日と設定することも検討する。

■利用料金

- ・ 入館料は引き続き無料とすることを前提に検討する。

3. その他

(1) 団体利用時の運用

1) 現在の運用

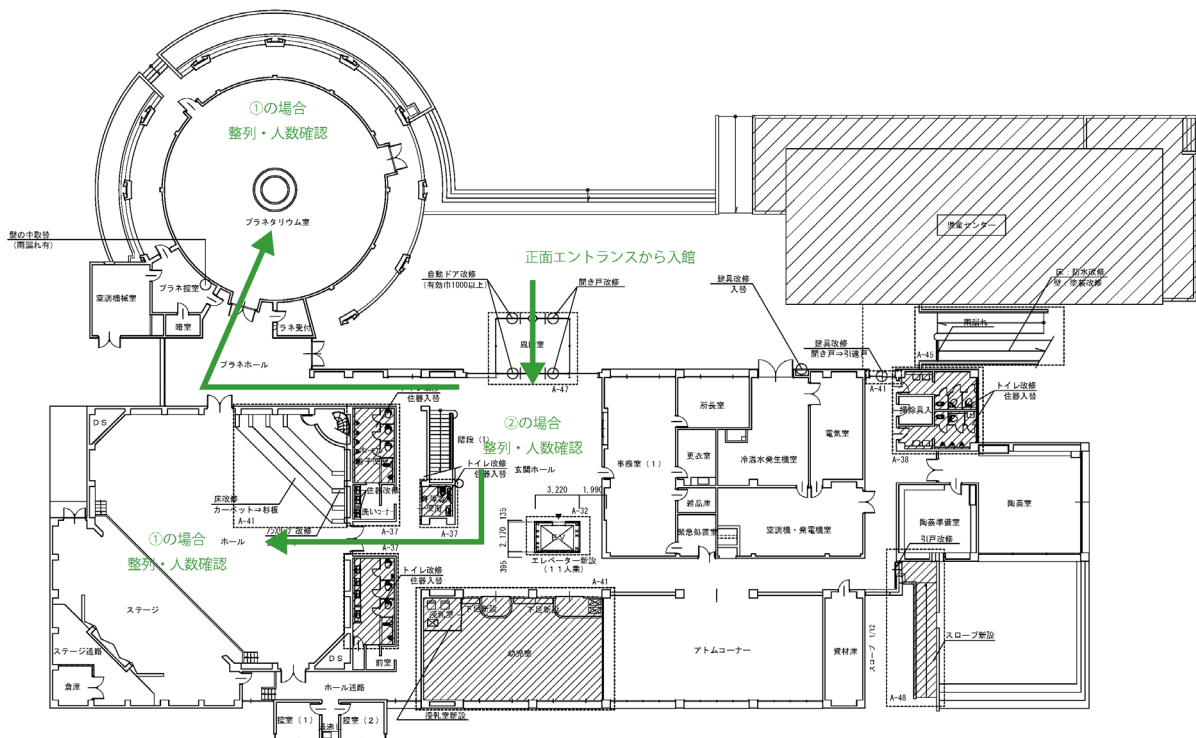
■入館ルート

現在は下記のような誘導を行っている。

①正面入口から入館→プラネタリウム室またはホールに入場→整列・人数確認
→観覧・自由行動

②正面入口から入館→エントランスロビーにて整列・人数確認→観覧・自由行動

【現在の団体利用時来館ルート】



■現状の対応・課題

- ・ 校外学習や遠足で来館する場合、人数・施設のイベント状況によっては「プラネタリウム室とホール」「プラネタリウム室と遊園」「プラネタリウム室と遊戯室」を合わせて利用する場合もある。
- ・ バスにて来場の場合、正面入口前のロータリーに停車させて順番に降りて入館する。バスから正面入口までは屋根がないため、雨天時は少しの間雨にあたってしまうことが課題である。

2) リニューアル後の運用

リニューアル後は、正面玄関にて外靴を脱ぎ、館内は基本土足厳禁での運用となる。団体来館の場合、多数の者が靴脱ぎのため滞留すると、ひさしのない館外にまで行列が発生し、来館者を風雨・炎天にさらすことが想定される。また、一般来館者との混乱も生じうる。そこでリニューアル後の施設レイアウトに応じた入館動線を検討した。

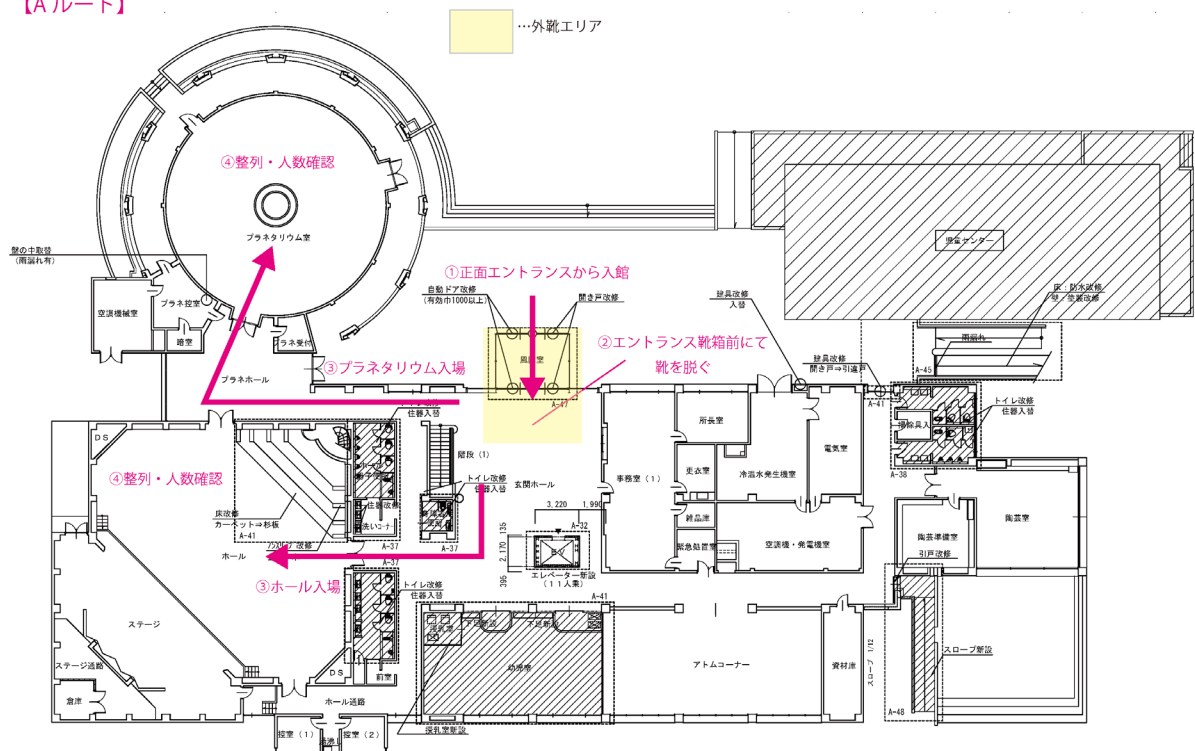
■入館ルート

リニューアル後は下記のような誘導が考えられる。

【Aルート】

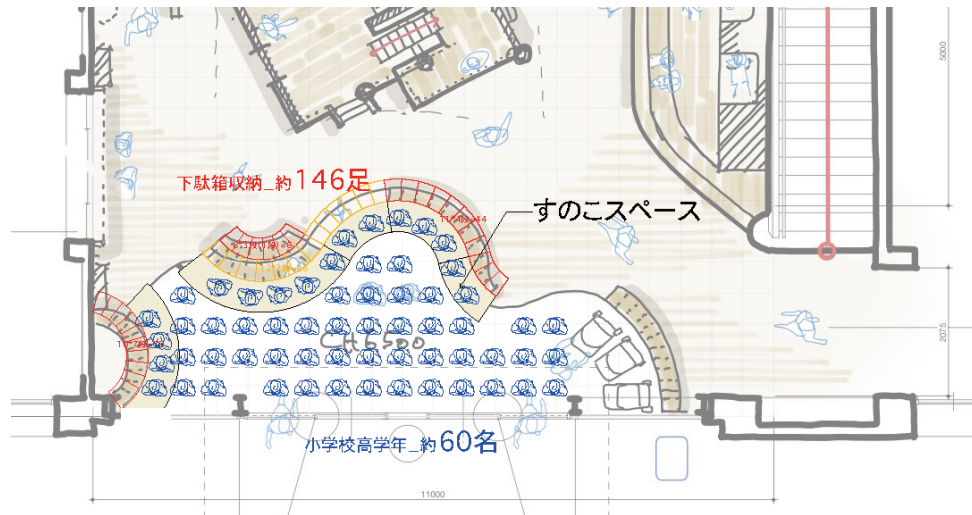
- ①正面入口から入館
- ②エントランス靴箱前にて靴を脱ぐ
- ③プラネタリウム室またはホールに入場
- ④整列・人数確認のち観覧・自由行動

【Aルート】



○検討のポイント

- ・雨天時に「①正面入口から入館」「②エントランス靴箱前にて靴を脱ぐ」場合、エントランス靴箱前は、小学校高学年約60名が滞留することが可能である。バスで来館時、1台につき最大40名の生徒が乗車していると想定した場合、バス1台毎に降車、入館すれば、屋外で待機することなく誘導できると考えられる。

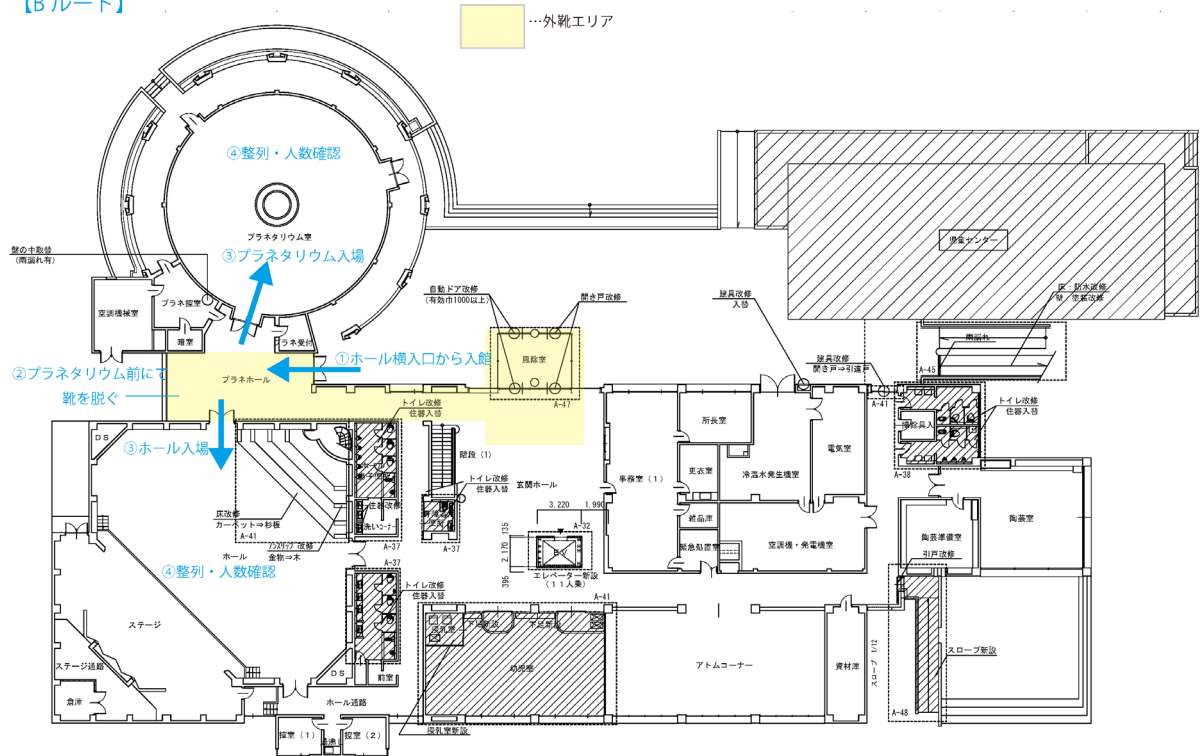


- ・一方で、一般来館者の入場動線とかぶるため、混乱が生じる可能性がある。
- ・エントランス前靴箱に団体来館者の外靴を収納した場合、一般来館者の外靴を収容するスペースを圧迫する可能性がある。

【Bルート】

- ①ホール横入口から入館
- ②プラネタリウム前にて靴を脱ぐ（この場合、プラネタリウム前は外靴エリアとする）
- ③プラネタリウム室またはホールに入場
- ④整列・人数確認のち観覧・自由行動

【Bルート】



○検討のポイント

- ・「①ホール横入口から入館」する場合、一般来館者の動線を分けられるため、動線の混乱を防ぐことができる。
- ・雨天時に「①ホール横入口から入館」する場合、バス降車後館内に入るまでに雨を防げる屋根がない。プラネタリウム屋外側のひさしの下に滞留させることも考えられるが、大人数を滞留させるのに十分な空間ではない。
- ・「②プラネタリウム前にて靴を脱ぐ」場合、プラネタリウム前も外靴エリアとする必要がある。その場合、自由観覧後プラネタリウム前に戻る際、短い距離だけ外靴に履き替える必要があり、非効率である。
- ・団体来館の外靴をプラネタリウム前靴箱に収容した場合、一般来館者がプラネタリウム前靴箱を使うスペースが圧迫される。

■リニューアル後運用上の課題・ポイント

【外靴の収容・扱いについて】

- ・ Aルート、Bルートともに、靴箱の収容数は団体来館に対応可能である。
- ・ 一般来館者の利便性や、靴箱前の混雑などを考えると、靴箱を利用せずビニール袋に靴を入れる→ホール等で各自の大きな荷物（リュックなど）とともに保管・管理していただくのが良いと考える。

【雨天時の入館待機への対応】

- ・ Aルートの場合、エントランス外靴エリアに滞留させることが可能であるため、屋外での待機を減らせるが、一度に60人以上来館した場合や、一般来館者が同時に来場した場合は屋外で待機せねばならない可能性がある。
- ・ Bルートの場合、入口が狭いため、Aルートよりも入館に時間がかかり、屋外での待機が増える可能性が高い。
- ・ 上記2点をふまえると、施設風除室前～ホール横出入口前の屋外にひさしを設けることは、来館者の利便性を考えると有効な手段ではないかと考えられる。ひさし設置の是非とその範囲について継続検討する。

【一般来館者との動線分け】

- ・ 団体来館時は入館時に靴脱ぎなどで多くの者が滞留することが考えられる。その際一般来館者の入館を妨げず、効率的なのはBルートと考える。

【プラネタリウム前の靴の運用について】

- ・ Bルートの場合、プラネタリウム前が外靴エリアとなるので、イベントで多数が来館するような場合でも、入場動線を分散することができて効率的である。
- ・ 一方で、館内移動時の利便性を考慮すると、プラネタリウム前は室内エリアが望ましい。
- ・ 外靴エリアの範囲については継続検討が必要である。

(2) 年齢層の住み分け

- ・ リニューアル対象エリアの展示・遊具について、明確な年齢制限は設けない運用とする。
→ 什器の配置や、色分けなどの工夫で緩やかなゾーニングを行う。
- ・ 現状、時間帯によっては、児童層の来館が多いため、安全性の確保の観点から幼児室を利用する児童層に対しては乳幼児層への配慮を声掛けする運用にしている。
→ 今後、時間帯で乳幼児専用の部屋を設定することで、幅広い世代が過ごしやすい環境を提供することも検討する。

(3) 水槽展示生物の飼育

水槽展示にあたり、生物飼育・機器の維持など、新たに施設運営の要素が増える。展示として効果的で、かつ施設運営に負担にならず持続可能な運営手法を、4つの観点から比較検討した。

1) 飼育水の種類の比較

生物を飼育する水の種類によって、コスト・難易度が変動する。淡水/人工海水/天然海水で比較検討を行った。

	イニシャルコスト	ランニングコスト	飼育水の準備	飼育水の排水先	総合評価
① 淡水	◎	○	◎	△	◎
② 人工海水	△	△	○	△	○
③ 天然海水	△	△	×	△	×

【各比較項目の評価について】

○イニシャルコスト

- ・海水の場合、通常の濾過槽設備に加えてプロテインスキマー（※1）の設置が推奨される。
→②③は追加設備が必要なため評価△、通常の濾過槽設備で良い①は評価◎とした。

※1：プロテインスキマーとは

- ・ろ過装置の1種。排せつ物などの有機物からアンモニア（生物にとっては有毒）が発生する前に、除去を行う。
- ・泡が有機物を吸着する性質を利用し、海水を泡立てごみを取る。
- ・必須設備ではないが、設置することで水替えの回数が減り、人工海水の節約につながる

○ランニングコスト

- ・①は水道代に加え飼育水を準備する際に、水道水のカルキ抜きのため中和剤が必要。
- ・②はカルキ抜き用の中和剤に加え、人工海水の素が必要。
- ・③は近隣取水の場合、取水用の設備（くみ上げ用のポンプ、輸送用トラック等）を必要とする。

→上記条件を比較し、一番コストが低い①を評価○とする。追加で薬剤が必要な②は評価△。薬剤は不要だが、取水設備にコストがかかる③も評価△とする。

○飼育水の準備

- ・①の場合、水道水のカルキ抜き・水温調整が主な作業である。
- ・②の場合は上記作業に加え、人工海水の素を加え、成分調整を行う作業が必要である。
- ・③の場合、近隣の海から取水する必要があるが、海水のくみ上げ・海水の輸送が必要であり設備投資や手間を考えるとあまり現実的ではないといえる。

→よって①は評価◎、②は評価○、③は評価×とする。

○飼育水の排水先

- ・海水の場合、施設内、または施設周辺の排水配管への影響がないかが懸念点である。
- ・淡水、海水に関わらず大量の飼育水を通常排水に流してよいのかは、市の水道局への確認、また施設周辺への配管への影響を検討する必要がある。

→よって①②③とも評価△とする。

【総合評価】

上記比較を見ると最も実現可能性が高いのは淡水水槽である。海水の場合、天然海水を取水してくる運用はコスト・手法ともに難易度が高く実現可能性は極めて低いといえる。しかし人工海水の場合、飼育水を作る工程があるものの、実現可能性はあると考えられる。

2) 飼育する魚種

飼育する魚種によって飼育の難易度・生物入手の難易度が変わる。ペットショップなどで手に入れられる観賞魚/海や川に生息している天然魚の4パターンで比較検討した。

	入手しやすさ	飼育しやすさ	展示としての魅力	アンケート結果での期待度	総合評価
① 淡水域の観賞魚 <small>魚種の例 メダカ・金魚・グッピー・ベタ・コリドラス シマドジョウ・ヤマトヌマエビ・ウグイなど</small>	◎	◎	△	○	◎
② 淡水域の天然魚 <small>魚種の例 アユ・ヤマメ・スナヤツメ・ホトケドジョウ メダカ・コイなど</small>	△	○	○	○	○
③ 海水域の観賞魚 <small>魚種の例 カクレクマノミ、ナンヨウハギ、ルリスズメダイ など</small>	○	△	△	○	△
④ 海水域の天然魚 <small>魚種の例 サバ・アジ・ブリ・敦賀真鯛・敦賀ふぐなど</small>	△	△	◎	◎	○

【各比較項目の評価について】

○入手しやすさ

- ・①③はペットショップでも取り扱いが多く、最も入手しやすい。
- ・①については日本の河川に生息する魚種も観賞魚として育成されたものがある。
- ・②④は入手先のあてが少ない。食用活魚を入手する手段が考えられる。

→入手しやすい①は評価◎、③は評価○とした。対して入手ルートのあてが少ない②④を評価△とする。

○飼育しやすさ

- ・①は水温管理が比較的容易な魚種が多く飼育難易度は低い。
- ・②も水質管理は比較的容易。しかし自然界に生息する魚は人工飼料（粒状・フレーク状のもの）をエサだと認識できない場合があり継続的な飼育に工夫が必要。
- ・③は熱帯域の魚種が多く、温かさを保つ必要がある。また海水の維持管理が必要。
- ・④は水温、海水の維持管理が必要。また天然魚の場合、②と同じく人工飼料（粒状・フレーク状のもの）をエサだと認識できない場合があり継続的な飼育に工夫が必要。

→飼育難易度が低い①は評価◎。②は評価○。水質管理が少し難易度の高い③とエサやりに工夫が必要な④は評価△

○展示としての魅力

- ・①は家庭などでも飼育できる魚種が多いため、希少性は低い。また熱帯域の魚種の場合は、敦賀との関連度は低い。
- ・②は近隣河川の魚種を展示できれば、展示テーマとも一致し、展示的意義が高まるのではないかと。
- ・③は水族館でも鑑賞する機会が多く、敦賀ともあまり関連性がないので、展示としての魅力は低い。
- ・④の場合、施設は海に近く、漁港もあるため、近海に生息する魚を展示することは、展示テーマとも一致し、展示としての魅力は高いと考えられる。

→最も魅力が高いのは④と考え評価◎とする。次に敦賀との関連性が高いと考える②を評価○、敦賀との関連性が低い①③は評価△とする。

○アンケート結果での期待度

- ・基本構想時のアンケートでは水槽展示を期待する声が多くみられた。その中でも敦賀近海の魚を飼育する水槽へ期待する意見が多くみられた。

→①②③は評価○、④は評価◎とする。

【総合評価】

入手、飼育などの観点から考えると最も実現可能性が高いのは①淡水域の観賞魚である。しかし、一般家庭でも飼育可能で敦賀ともあまり関連性がない魚種が多く展示としての魅力は低い。また③海水域の観賞魚は、熱帯域の魚種が多く、敦賀との関連性が低く展示としての魅力は高いとは言えない。一方、②淡水域の天然魚、④海水域の天然魚/食用養殖魚は、入手・飼育難易度は高いものの、施設近隣に生息する魚種を展示できれば、リニューアルの展示テーマとも一致し、有意義な展示となるのではないかと。

3) 運営方式の比較

運営方式によって、職員への負担・ランニングコストが変動する。今の運営組織体制で実施/一部を専門業者に委託/新規に飼育職員を採用の3つの方式を比較検討した。

	ランニングコスト	運営にかかる業務負担	機器メンテナンス	生物飼育	生物補充	総合評価
① 館スタッフにて飼育・メンテナンス	◎	○	○	△	△	○
② 専門業者への業務委託	○	◎	○	△	○	◎
③ 飼育知識を持った専属スタッフ人員を追加	△	○	○	○	△	△

【各比較項目の評価について】

○ランニングコスト

- ・①は館スタッフの作業負担が増えるものの、追加人件費が不要。
- ・②の場合、外部業務委託費として約20万円/月がかかる（概算）。
- ・③は専属スタッフの人件費が発生する。市民ボランティアが協力してくれる事例もあったが、現実的ではない。

→追加コストが最も少ない①は評価◎、その次にコストが低い②は評価○。最もコストがかかる③は評価△とする。

○運営にかかる業務負担

- ・①③は水替え、飼育水準備の手間がかかる。
- ・②は月2回のメンテナンスの中で水替えと清掃を実施するため館スタッフの負担は軽減する。温度管理や日常的な清掃はスタッフがする必要がある。

→スタッフ負担が最も少ない②は評価◎。①③は評価○とする。

○機器メンテナンス

- ・①②③すべての場合、日々の機器、水槽の状態チェックはスタッフにて対応する必要がある。

→①②③とも評価○

○生物飼育

- ・①の場合、生物不調時の対応が困難な場合の相談先が必要。

- ・②の場合は月2回の来訪あり。生物不調の相談はある程度可能だが、委託業者が常駐して確認はできない。
- ・組織内にスタッフがいる③の場合は、対応はしやすいのではないかと。生物不調時のノウハウがあるスタッフである必要がある。

→①②は評価△、③は評価○とする。

○生物補充

- ・①の場合、飼育したい生物が一般販売の少ない生物の場合、供給元が課題。
- ・②の場合、観賞魚以外も対応が可能。観賞魚以外の場合、シーズン、天候によっては希望の魚種が難しい可能性がある。
- ・③の場合、観賞魚など一般販売が少ない生物の場合、供給元が課題。

→①③は評価△、②は評価○とする。

【参考】水槽管理業者へのヒアリング内容

ヒアリング先：某水槽管理業者A社（本社東京、敦賀から最も近い支店は名古屋）

- ・月額メンテナンスでの契約で実施する内容は以下の通り。
 - 一水替え（総水量の1/5）
 - 一水槽コケ取り
- ※水替え、清掃に伴う消耗品も契約に含む。
- ・最低契約期間は1年間。
- ・敦賀市への訪問の場合、名古屋支社より出張する。
- ・天候（積雪）によっては、メンテナンス訪問ができない可能性がある。
- ・月2回の定期メンテナンス以外の訪問対応や、水替え量の変更、生体補充は別途料金が必要。
- ・生物補充は熱帯魚以外も取扱いあり。場合によっては食用活魚を仕入れることも可能。

【総合評価】

ランニングコストはかかるものの、運営にかかる業務負担の軽減・飼育生物の供給先が確保されるという観点から、②専門業者への業務委託が最も実現可能性が高いと考える。ただし業務委託業者は「観賞魚以外（熱帯魚以外の活魚や日本固有の生物）も生物補充の対応が可能であること」「当館類似施設との契約実績があること」「想定される様々な場面で迅速な対応が可能な拠点が近距離にあること」を重視し選定することが必要である。

4) 予備水槽の有無

水生生物を展示する施設では、生物のバックアップ・不調時の療養用等を目的に、予備水槽を保持していることがある。本施設に予備水槽が必要か、条件を整理する。

【予備水槽の目的】

- ・ 補充用生物の飼育
- ・ 不調の個体が発生した際の隔離先
 - 展示用とは異なり美観や容量を確保する必要はないので、小型で簡易なもので問題ない。
 - 前項で述べたように運営方式を専門業者への業務委託にした場合、補充用の魚類は委託業者にて対応が可能で委託業者が予備水槽の役割を果たすため、不調個体の対応を施設内で行わないのであれば予備水槽は不要と考える。

【本計画で目指す水槽展示】

- ・ 飼育水
 - 淡水と比較すると海水の難易度は高いが、実現可能性はあるので、人工海水を使用した海水水槽を前提に検討する。
- ・ 飼育する魚種
 - 入手面や飼育面での課題はあるが、展示としての魅力やアンケート結果から読み取れる期待度が高いので、海水域の天然魚・養殖魚を前提に、敦賀に関連する魚種を優先して検討する。
- ・ 運営方式
 - 日常の運用の中で、最も負担が大きい水槽の水替え・生物補充・機器メンテナンスを専門業者に委託することを前提に検討する。
 - 現状の運営体制にて対応可能であり、持続可能な方式だといえる。

第6章 概算事業費及び維持管理費の算出

1. 概算事業費

次ページより事業概算費を示す。

参 考 御 見 積 書

NO.

令和6年3月19日

敦賀市長 米澤 光治 様

下記のとおり、お見積りいたします。

金額 ¥197,961,500- (税込)

内消費税 ¥17,996,500-

件名 敦賀市こどもの国(屋内プレイエリア)
リニューアル基本計画策定業務委託 展示設計施工概算

お引渡し期日 別途協議

お引渡し場所 福井県敦賀市榑川42-2-1

お支払い条件 別途協議

その他 ※設計内容によって変動します。
※平日日中工事
※展示資料,グラフィック素材は御支給想定

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番23号

株式会社トータルメディア開発研究所
代表取締役 山村 健一郎

TEL:03-3221-5558(大代表) FAX:03-3221-5277

[担当者]

開発営業本部 西日本営業部
林野 雄一郎

〒553-0001 大阪市福島区海老江3-22-61

TEL:06-6442-3571 FAX:06-6442-3579

y-hayashino@totalmedia.co.jp

2. リニューアルに関連する維持管理費

リニューアル後、現状の維持管理費に加え新たに必要と考えられるランニングコストを検討・算出した。なお、以下の数値は計画段階の概算参考値である。

①水槽維持管理費	70 万円/年 (税込)
②水槽管理業務委託費	240 万円/年 (税込)
③映像機器メンテナンス費	40 万円/年 (税込)
④大型遊具メンテナンス費	50 万円/年 (税込)
計	400 万円/年

※上記は想定 of 概算であり、実際のランニングコストは詳細設計後、再度見積が必要。

【項目内訳】

①水槽維持管理費

水槽展示を続けていくには、飼育水の入替費用、機器を動かすための電気代、エサ等の消耗品代などのコストがかかる。以下、1年間水槽展示を行った場合の、水槽の維持管理に必要な費用を検討した。

水道代：約 2 万円＋電気代：約 54 万円＋その他雑費：約 14 万円＝約 70 万円

【検討条件】

- ・ 90cm 水槽 2 台 (水槽寸法：W900×D450×H450mm、濾過槽：W650×D320×H350mm)
- ・ 電気を要する機器：ポンプ、水中ライト、ヒーター、クーラー
- ・ 水温：15℃

○水道代＝約 20,000 円

A) ひと月に消費する水量 (想定)：約 784L

- ・ 水槽総水量 (水槽+濾過槽) …244L×2 台=488L
- ・ 水槽水替 (総水量の 1/5) ×月 2 回入れ替え… (約 488L÷5=98L) ×2=196L
- ・ 清掃等…100L

B) 敦賀市の水道代：1 m³あたり 2,116 円/月

A) ひと月に消費する水量 (想定)：約 0.784 m ³ (784L)
B) 敦賀市の水道代：1 m ³ あたり 2,116 円/月
A)×B)×12 ヶ月=0.784×2,116×12=19,907.328

※敦賀市水道代参照

○電気代=約 54 万円

A)年間の電気消費量 (想定) : $2\text{kW} \times 24 \text{時間} \times 365 \text{日} = 17,520\text{kWh}$

今回計画の水槽 1 台当たり消費電力 (60hz 域の場合)

- ・ポンプ…0.05kW
- ・水中ライト…0.006kW
- ・ヒーター…0.3kW
- ・クーラー…0.6kW

小計 約 1kW

B) 敦賀市電気料金 (想定) : 30.82 円/kWh

※参考 : 北陸電力 HP

A)×B)= $17,520\text{kWh} \times 30.82 \text{円/kWh} = 539,966.4 \text{円}$

○その他雑費=約 14 万円

- ・エサ代
- ・清掃用消耗品など

②水槽管理業務委託費

また①とは別に、水槽飼育水の水替え・機器メンテナンス・飼育生物補充を外部専門業者に業務委託した場合、年間で費用は以下の数値が想定される。

約 20 万円/月 × 12 ヶ月 = 約 240 万円/年

【項目想定】

- ・水槽メンテナンス費 (月 2 回)
 - 水槽水替え、コケ取り
- ・水替えに付随する消耗品補充 (人工海水用塩・ウールマット)
- ・業者出張費

※生体種類や匹数、作業環境によって費用、メンテナンス回数は変動する。

※経年劣化によって生じた機器交換、生体補充は都度別途費用が必要。

③映像機器メンテナンス費

プロジェクターやサイネージモニタなどの映像機器は、定期的な機器メンテナンスとパーツや本体の交換が推奨されている。定期メンテナンス、機器交換及び修繕に係る費用は以下の数値が想定される。

- ・年1回の定期点検（PCバックアップ電池交換含む）＝約40万円/年

【項目想定】

- ・機器動作確認、清掃、点検及び対象機器のファームアップ更新
- ・部品交換メンテ、性能評価
- ・業者出張費

※定期点検時に発見された故障不具合の修理費は上記含まず

※定期点検時以外の突発故障時点検は別途。

【主な機器の保証期間】

- ・液晶モニター：3年
- ・デスクトップPC：3年
- ・その他機器：1年
- ・プロジェクター：3年

④大型遊具メンテナンス費

大型遊具は安全を確保するため、定期的な保守点検が推奨される。保守点検費に係る費用は以下の数値が想定される。

- ・年1回の定期点検＝約50万円/年

【項目想定】

- ・展示設備特殊清掃及びタッチアップ（軽微美装）
- ・すべり台等の遊具安全点検
- ・業者出張費

第7章 整備スケジュール(案)

下記のように整備スケジュールを検討した。

